

2016年度

事業報告書

学校法人 KOBE COLLEGE

神戸女学院



日本を代表する 「キリスト教主義リベラルアーツ教育」を目指して

神戸女学院は、自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」から派遣された二人の女性宣教師によって、1875年（明治8年）、神戸に設立されました。2015年に、創立140周年を迎えました。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に、現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。2014年9月には、岡田山キャンパスのウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計による12棟の建物が、国の重要文化財に指定されました。名称は「重要文化財 神戸女学院」です。自然や景観を含めて、岡田山キャンパスが重要文化財指定の対象になったのだと理解しています。

神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現しています。キリスト教を基本とする全人教育を教育の中心に置き、獲得した知識や技術を自分のためだけに用いるのではなく、社会、国家、世界のために貢献することのできる女性を養成すること、これが神戸女学院の教育目標です。

神戸女学院大学は教育目標として、さらに具体的に、「日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女子大学」となることを掲げています。リベラルアーツ教育によって、分野横断的に、複数の視点からの学びを行い、多様な分野で活躍できる女性を育成することを目指しています。2017年度から、リベラルアーツ教育を実現するための、新たなカリキュラムを始めます。

中高部は関西における最難関校の一つと評価され、毎年、顕著な大学入学試験の実績を残しています。しかし、入試実績を公表していません。大学入試実績は、神戸女学院中高部の教育の結果であって、神戸女学院中高部教育の目的ではないと考えているからです。勉学と諸活動の両立を実現している中高部生は、その存在自体が「神戸女学院ブランド」そのものと言えるでしょう。

2016年度はとくに、教育環境の整備・充実に注力いたしました。4年に一度のITリブレース、入学センターの移転、大学・中高部校舎の修理・修繕など、具体的な内容につきましては本報告書をご覧ください。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人 神戸女学院
理事長・院長

森、孝一



- 1 理事長メッセージ
- 3 建学の理念・教育目標／
設置学校・学部・学科等／沿革
- 5 大学メッセージ／
中高部メッセージ

2016年度の取り組み

- 7 Close-up : 01
リベラルアーツ教育のさらなる充実を
- 11 環境整備
- 13 環境整備／学習環境
- 14 学習環境／学生生徒支援
- 15 広報強化
- 16 高大連携／地域連携
- 17 産学官連携／国際化
- 18 出版／管理運営
- 19 Close-up : 02
Close-up people 2016

神戸女学院 基本データ

- 21 入学定員・収容定員・在籍者数
- 22 在籍者数推移
- 23 志願者数・合格者数・入学者数
- 24 留学
- 26 卒業・修了・満期退学、
博士学位授与の状況
- 27 就職・進学状況
- 29 役員・評議員／教職員
- 30 事務組織図

財務の概要

- 31 2016年度決算の概要
- 32 事業活動収支計算書
- 34 資金収支計算書
- 36 貸借対照表
- 38 財務比率の推移

2017年度事業計画

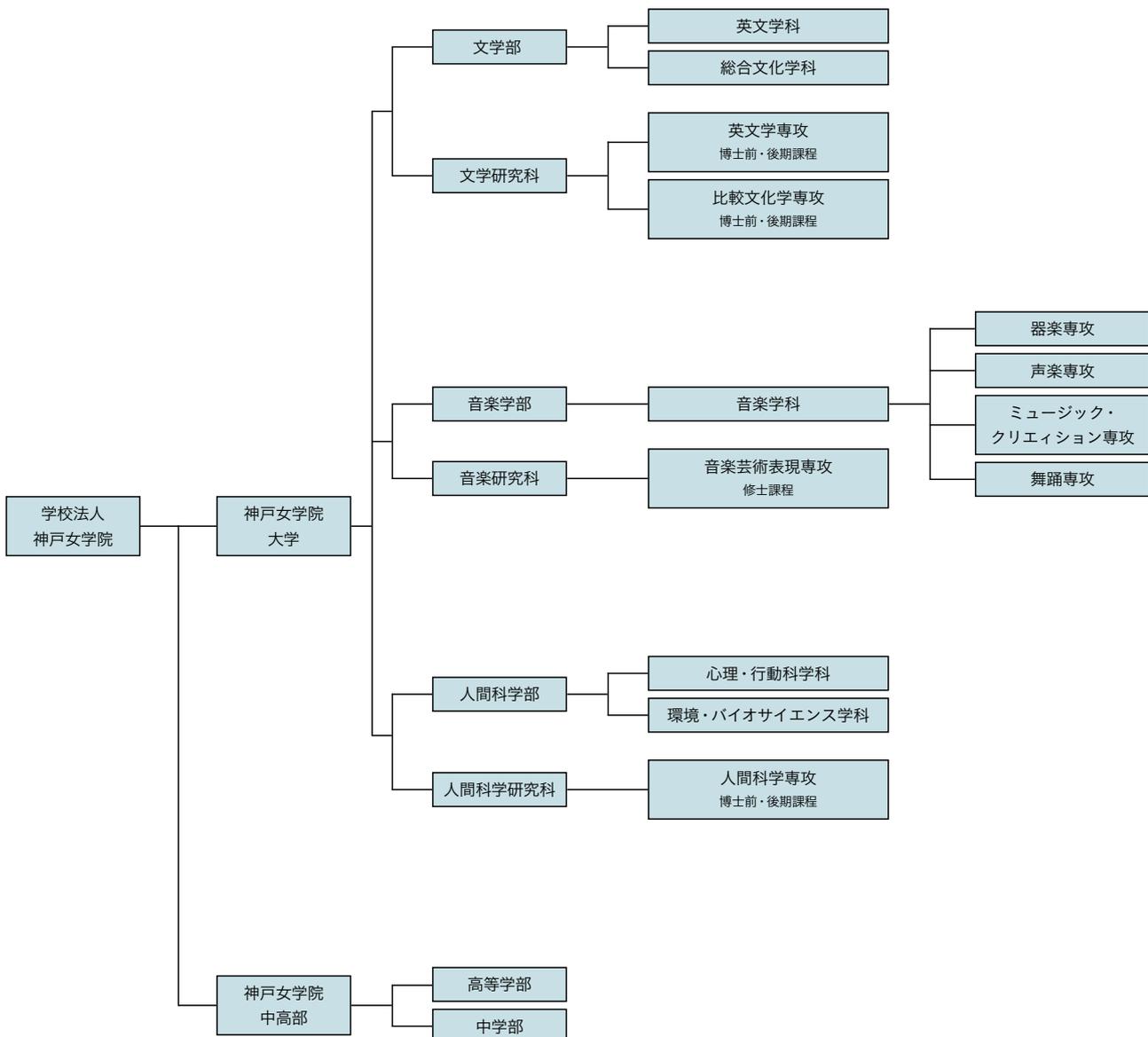
- 39 今後の運営方針及び
2017年度事業計画
- 40 2017年度予算書
- 42 校地・校舎

建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立されました。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成でした。以来、高い教養と専門的知識、広い視野と適確な判断力、さらに語学力

を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきました。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っています。

設置学校・学部・学科等



学校法人 神戸女学院の沿革

1873年(明治6年)	米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。
1875年(明治8年)	創立。山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。
1879年(明治12年)	校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。
1885年(明治18年)	高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。
1891年(明治24年)	本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。
1894年(明治27年)	「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。
1906年(明治39年)	教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。
1909年(明治42年)	専門学校令により「専門部(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。
1919年(大正8年)	日本女子大、東京女子大に続き、専門部を「大学部」と称することを認められる。予科1年・本科3年を置く。
1933年(昭和8年)	西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。
1948年(昭和23年)	学制改革により4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。
1949年(昭和24年)	新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。
1965年(昭和40年)	大学院文学研究科(修士課程)英文学、社会学専攻を設置。
1967年(昭和42年)	家政学科が独立して家政学部となる。
1975年(昭和50年)	創立100周年を迎える。
1976年(昭和51年)	文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。
1980年(昭和55年)	大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文学専攻を設置。
1989年(平成元年)	大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。
1990年(平成2年)	音楽専攻科を設置。
1993年(平成5年)	家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置(家政学部は募集停止)。
1997年(平成9年)	大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。
1999年(平成11年)	大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。
2000年(平成12年)	創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化学専攻に改称。
2002年(平成14年)	大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。
2004年(平成16年)	大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。
2005年(平成17年)	人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置(人間科学科は募集停止)。
2006年(平成18年)	音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。
2007年(平成19年)	音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。
2013年(平成25年)	大学院文学研究科社会学専攻を廃止。
2014年(平成26年)	岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定される。
2015年(平成27年)	創立140周年を迎える。 大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻にグローバル・スタディーズコースを設置。



Message

神戸女学院大学

専門性と人間力を育み、
判断力と対応力を備えた
真のリーダーを輩出します

5つの科目群を自在に組み合わせて 学ぶ新しいリベラルアーツ教育を開始

本学は創立以来、揺るがぬ建学の精神を引き継ぎながら、それぞれの置かれた場所で世の中に貢献できる意識の高い女性を輩出して参りました。そして、現代の社会的状況、教育現場にも対応すべく、本学ではstudent firstを最優先に話し合い、熟考を重ね、カリキュラム改革を行いました。

2017年度より、5つの科目群による新しい形のリベラルアーツ教育がスタートします。全学生の必修として【コア科目(キリスト教学、英語、第2外国語、体育、IT)】と【クローバーゼミ(一つのトピックに対して、人文科学、社会科学、自然科学の3分野からアプローチし、各学部の教員が同じ科目を順番に展開する。三つ葉のクローバーは身体、精神、靈魂を

表す本学の校章)】。そして【オープン(選択科目)】、深い学びを目指す【マイナープログラム】、その上に各学部・学科の【メジャー(専門)】が積み上がるという構成です。

また、「愛と奉仕の精神」「豊かな感受性」「論理的思考力」「コミュニケーション力」「専門知識と技能」「創造力と企画力」「主体的に学び続ける力」を本学で育む7つの力と定め、豊かな人間力教育にも取り組んで参ります。

多角的な価値観と多様性の受容が 未来を生き抜く力に

本学での「専門領域」と「リベラルアーツ教育」とのバランスの取れた学びは、多角的な価値観を醸成し、多様性を受け入れる姿勢につながります。そのようなしっかりとした判断力と対応力を備えた、真に優しくたくましい女性リーダーが本

学から育っていくことを、大いに期待しています。

入学時には、自分が何者か、何を学び、何をやりたいのか目指したいのか、まだわからない学生がほとんどです。2017年度は、予想以上に多くの優秀な学生を迎えることができました。新カリキュラムによる学びという“養分”と将来の道への“指針”を与えられる頼もしい大学とならなければなりません。ソフト・ハードの両面から、本学の歴史の中で大きな区切りとなる150周年を視野において歩んで参ります。

神戸女学院大学 学長

青藤言子



Message

神戸女学院中学部・高等学部

主体的・積極的な学びを
深める環境を大切に生徒ひとりひとりが切磋琢磨しながら、
自主的に興味ある分野を追求

中高部では、生徒が互いの個性を尊重し合い、切磋琢磨し合って力を伸ばすことができるよう、充実した学習環境と主体的かつ積極的な学びの機会を提供しています。

数学オリンピック・数学甲子園・科学オリンピック・ディベート・模擬国連等、自主的に興味のある分野についての学びを深め、有志活動をしたり、様々なコンテスト・競技大会に挑戦したりする生徒が年々増えています。公的な補助が得られない大会も多く、過去には、挑戦したいけれども経済的に困難を感じる生徒もいました。卒業生でデザイナー・建築家の今竹翠氏が、すべての生徒に、もっとのびのびと多様な活動をし、若い創造性や感性を醸

成してほしいという強い願いを込めて多額のご寄付をくださり、2016年度TAK's Support給与奨学金として新たにスタートいたしました。

国際理解を深める教育の充実により
グローバル社会のリーダーを育成

4月にはトーゴ共和国の有名な歌手、キング・メンサー氏一行が来校し、礼拝でミナ語の歌を披露してくださいました。全校生徒もミナ語で歌に参加したり、中学3年生がトーゴのダンスと楽器演奏のワークショップに参加したりと、アフリカの文化に触れる機会を持ちました。7月には中高部の約30名が東京のトーゴ共和国大使館とJICA地球ひろばを訪問し、卒業生の職員から西アフリカの状況や国際支援についてお話しを伺い、国際的な教育支援について学びを深めました。

また、8月には第2回「Empowerment Program」を実施。英語で女性のリーダーシップについて話し合い、参加者の満足度は非常に高いものになりました。同月にオーストラリアの姉妹校MLCでの訪豪研修旅行が実施され、20名の参加生徒は充実した3週間を過ごしました。短期や長期の留学を経験する生徒や、様々な海外派遣プログラムで参加メンバーに選ばれる生徒もいます。このような経験を通して、将来、国際社会でリーダーシップを発揮するための基礎力を身につけることを期待しています。

神戸女学院
中学部・高等学部
部長

林 真理子

リベラルアーツ教育の

Point
01

専門性の追求+幅広い学びを兼ね備えた 新カリキュラムがスタート。

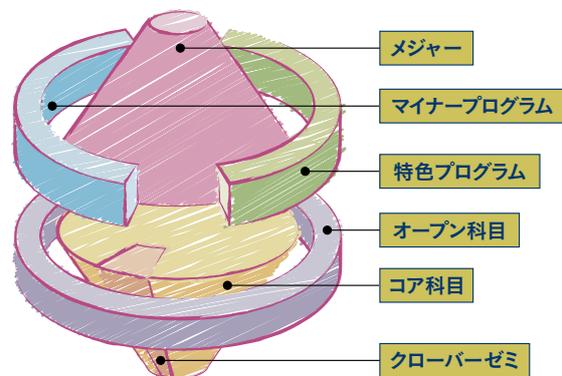
大学

2017年4月より本学で新カリキュラムがスタート。各学科の専門科目を学ぶ「メジャー」と社会に出る上で必要な素養を身につける「コア」を軸に、専門性を広げる「マイナープログラム」、社会での実践力を身につける「特色プログラム」、多角的な視点を磨く「クローバーゼミ」「オープン」を自在に組み合わせることができます。幅広い学問分野に触れながら専門的な知識を深められる、本学独自の取り組みです。

各授業の「教育目標」を明確化し、 主体的な学びをサポート。

実社会で求められるのは、専門的な知識やスキルだけではありません。論理的思考力や問題解決力、周りの人たちと協働するための共感力や対話力なども必要です。本学では、そういった社会で活躍するために欠かせない素養を「7つの力」に分類し、本学の教育目標として明確化。各授業でどの力を育むかを、授業の目的に添えて担当教員がシラバスに記載し、その内容を参考に学生自身がカリキュラムをデザインします。授業の意義に対する学生の自覚を深め、学びの質を向上させる取り組みです。

新カリキュラムの全体構成図



Point
02

一つのテーマを多角的な視点で考察。 「開かれた心」を身につけます。

大学

1年生後期(音楽学科のみ2年生後期)の必修として新たに設けた「クローバーゼミ」は、全学科学生合同のクラスで受講する授業。一つのテーマについて人文科学・社会科学・自然科学の異なる3分野から考察を行い、多角的な視野や自ら学びを深めるスキルを身につけることを目的としています。各分野9回ずつ、全30回の授業を週2回行うことを計画しています。

2016年度は「鯨」をテーマに、計14回のトライアルゼミを開講。人文科学分野では鯨と文学との関わり、社会科学分野では世界の捕鯨文

化と各国の見解、自然科学分野では生息数などの科学データなどを考察。各自リサーチをしてディスカッションで考えを出し合い、プレゼンやレポートなどで意見を発表する場を設けました。

この授業を通して、学生は他者との意見の違いとそれを共有する楽しさに気づき、「開かれた心」の大切さを学ぶことができました。学生への事後アンケートでは「プレゼンやディスカッションができた」「他学科の学生と交流できた」などの意見が寄せられており、満足度が高かったことが明らかになっています。

2016年に試験的に実施された「クローバーゼミ」の様子



さらなる充実を

世界で活躍する女性として大切な素養を育む「リベラルアーツ&サイエンス」。本学の教育の3つの柱の一つとして、教育内容のさらなる充実を図っています。

異なる視点から、一つのテーマを紐解いていく「クローバーゼミ」

…例えば、鯨について考える場合

日本では長年貴重なエネルギー源として利用してきた食文化的な側面があります。ただ、国際社会では鯨を捕獲することに反対する反捕鯨の見方もあるため、なぜ対立があるのか両方の立場を丁寧に考えます。自然科学の観点では絶滅に瀕している種をどう守るかなど、どの視座で物事を捉えるのかで全く違う見解が出てきます。そのどれが正しい、ということではなく広く捉えて深く考えていくことの重要性を身につけます。



人文科学

哲学、言語、文芸、歴史など人や文化に関する学問

社会科学

政治、法律、経済、社会学、心理学など社会現象を対象とした学問

自然科学

科学的手段で自然界におけるさまざまな現象を解明しようとする学問

授業を振り返った受講生のアンケート

Q1:全14回を通じて、クジラの何について

興味が高まりましたか

- ・根本的に捕鯨問題についてあまり知らなかったのが、今の世界で捕鯨問題がどのようにとらえられているのかという点
- ・クジラと文化について興味が高まりました。日本と外国という風にクジラに関する事柄をこれまでビデオ、資料を通してみてきました。日本は、自身が住んでいるから、文化的背景や歴史、日本人が考える事柄についての傾向などがわかりますが、これまで触れたことがなかった国を調べていくのは、もう少し知っていれば面白いだろうと思った
- ・鯨の生態や生活についての自然科学や捕鯨問題に関わる社会科学、鯨について書かれた文章を読んで考える人文科学の3つの観点から様々なことを学ぶことができました

Q2:来年度からのクローバーゼミ実施に

あたり継続した方がよいところ

- ・ほぼ毎回、グループディスカッションを行う時間があり、考え方が深まりました
- ・ディベートが一番楽しかったです。正直、自分は緊張してあまり話せなかったのが心残りなのですが、リベンジできるならもう一度したいです
- ・先生が3人いらっしゃることで、3つの視点やそれぞれのやり方で学べるのはほかの授業ではあまり経験できないということもありよかったです
- ・自分が普段なれない分野にもふれ、それらをあわせて考えることができる点。グループワークが多く、様々な意見に触れることができた点。それにより、新しい考えができたり、内容を整理しやすかった
- ・毎回席やグループをかえて、意見を言うようにすること。自分の発言力も鍛えられ、様々な相手の意見についても考える機会が得られるから



Point
03

体験を通し学びを深める フィールドスタディ

大学

文学部英文学科Field Study、総合文化学科プロジェクト科目は、机上の学びを国内外の現場で深め、多角的・実践的な知のあり方を体得することを狙いとしています。とりわけ海外フィールドワークでは、異文化に身をさらし五感を総動員しながら、理解を深め、コミュニケーション力、国際感覚、行動力を磨きます。2016年度は、ポーランド、インド、中国の3カ国で充実したプログラムが実施され、参加学生が研鑽を積みました。受入先・訪問先の諸機関の方々には大変お世話になりました。

ポーランドで世界の課題を考察

グローバルな課題に触れ、視野を広げる英文学科のField Study。2016年度は世界大戦や移民・難民問題をポーランドの視点から考察しました。12日間の現地学習には12名の学生が参加し、ワルシャワでのホームステイを始め、3つの大学でのワークショップ、アウシュビッツ訪問、オポーレ副市長との会談など充実した研修の時間を過ごしました。世界の様々な課題を主体的に捉えるきっかけとなる貴重な機会を得ました。



インドの多様な生き方に学ぶ

総合文化学科プロジェクト科目「フィールドで学ぶ現代インドの諸問題」では、インド・バンガロールで10日間、協定校（セント・ジョセフ大学）の協力を得ながら、ストリートチルドレン保護施設、マザーテレサ施設、農村貧困女性の自立支援団体、チベット人学生寮等を訪れ、多様な生き方に触れました。



中国で体験する異文化

プロジェクト科目「中国で体験する異文化」では、9月11日から1週間、フィールドワークとして本学の提携校である広東外語外貿大学を訪問しました。現地では、中国語の学習、武術・舞踊・書道・切り紙といった中国文化の体験、日本語学科の学生との交流という3つの活動を行いました。

社会と関わりながら主体的に学ぶ 多彩な授業・プログラムを実施

中高部

中高部では、生徒自身が問題提起をし、多様な力を駆使して考えを深め、答を見つける、主体的・積極的な学びを大切にしています。また、授業で学んだことを土台にし、興味のある分野の社会参加ができるよう、様々な機会を提供しています。2016年度は

宗教部主催の夏の修養会として、広島での平和学習や長島愛生園・邑久光明園訪問、白浜バプテスト教会訪問が企画され、多くの生徒が参加しました。第2回エンパワーメントプログラムや新企画の中学部自治会役員の東京訪問も盛り多いものになりました。

夏の修養会 ～広島訪問

「平和を実現する人々は、幸いである」という聖句の今日的な意味を考え、語り合うプログラムです。これからの時代を担ってゆく者として、自らの使命に向き合うことを目指しています。



キャリアガイダンス

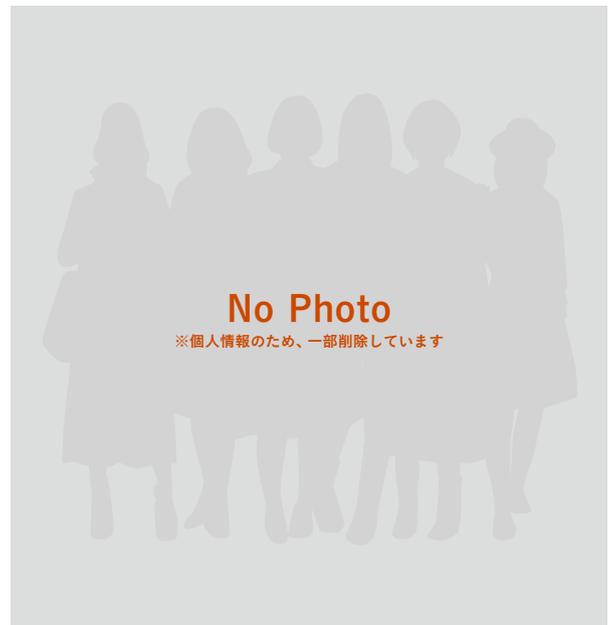
東日本大震災から5年経った今年、第1回(12月)は福島県いわき市、第2回(3月)は相馬市から講師を招いて講演と質疑応答の時を持ち、生徒たちに自らのキャリア形成を考える機会を提供しました。

探究授業

中1では、本に親しみ、調べ方、まとめ方、発表方法の基礎を学ぶプログラムを行っています。中2、高1では、一人一人が個人でテーマを設定し、約半年をかけて様々な方法で調べ、考察をしてレポートにまとめ、発表します。優秀作は礼拝の時に全校生徒の前で発表を披露します。

中学部自治会役員の東京訪問

中3、高1の自治会役員27名は、発展途上国の現状や支援について事前学習をした後、7月に東京にあるトーゴ共和国大使館とJICA地球ひろばを訪問し、国際協力の分野で活躍しておられる卒業生2名からお話を伺いました。書籍から得た知識と現実とのギャップについて気づき、「先入観を持たず、相手の方が本当に必要としていることを考えることが大切」なことを学びました。今後は文房具の寄付などの活動につなげる予定です。



エンパワーメントプログラム

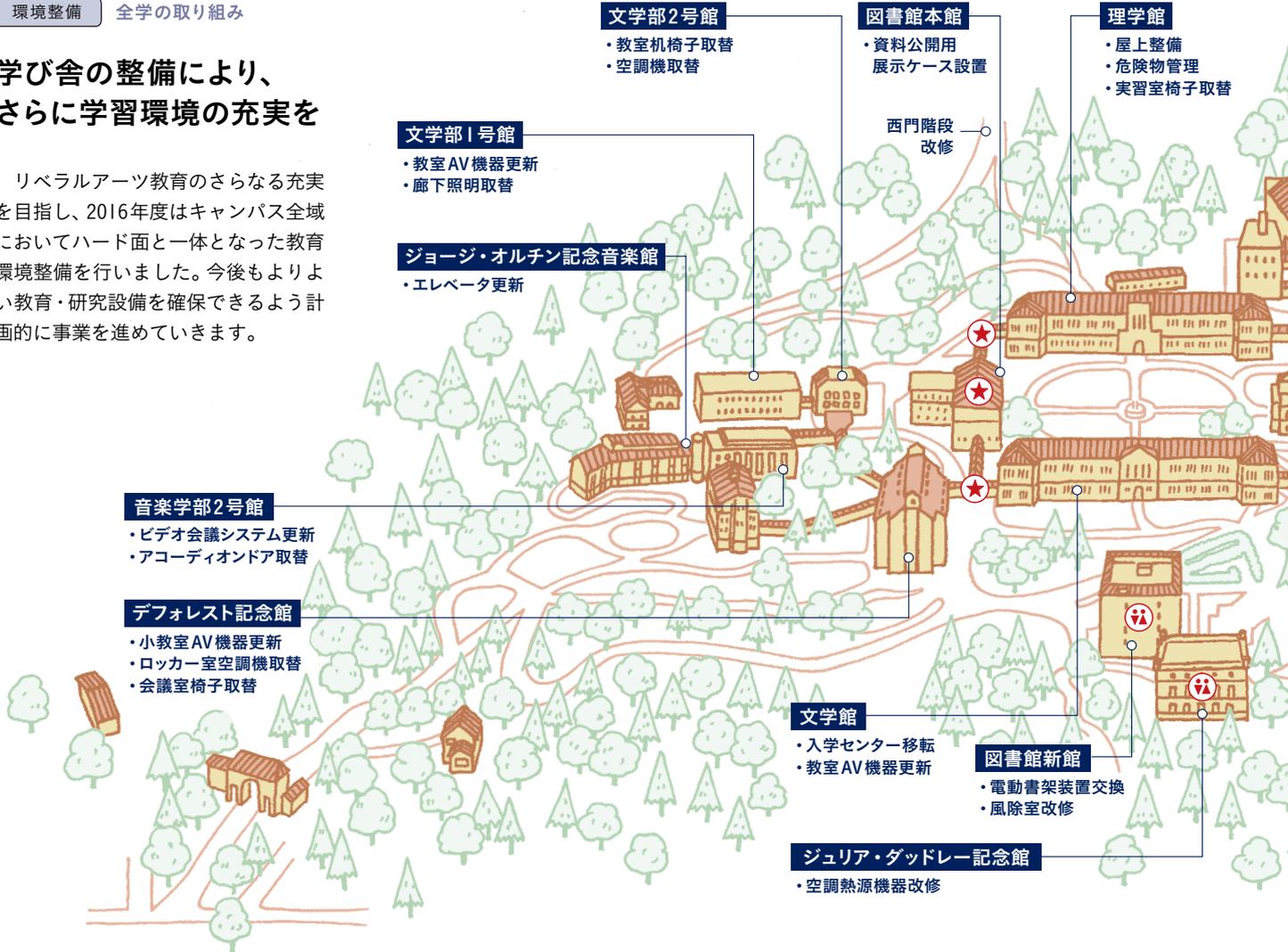
米国女子大(Mount Holyoke College、Smith College)学生とのディスカッションやアクティビティを実施。生徒が自らの将来に何が必要かを考え、気づき、行動する人になることを目的としたプログラムです。世界で活躍するための基礎力である、自分を見つめ表現する力や英語で意思疎通する力を養いました。

トーゴ大使館にて

環境整備 全学の取り組み

学び舎の整備により、さらに学習環境の充実を

リベラルアーツ教育のさらなる充実を目指し、2016年度はキャンパス全域においてハード面と一体となった教育環境整備を行いました。今後もよりよい教育・研究設備を確保できるよう計画的に事業を進めていきます。



環境整備 大学の取り組み

文学部2号館・デフォレスト記念館・理学館等の教室を整備。明るさ・機能性を改善

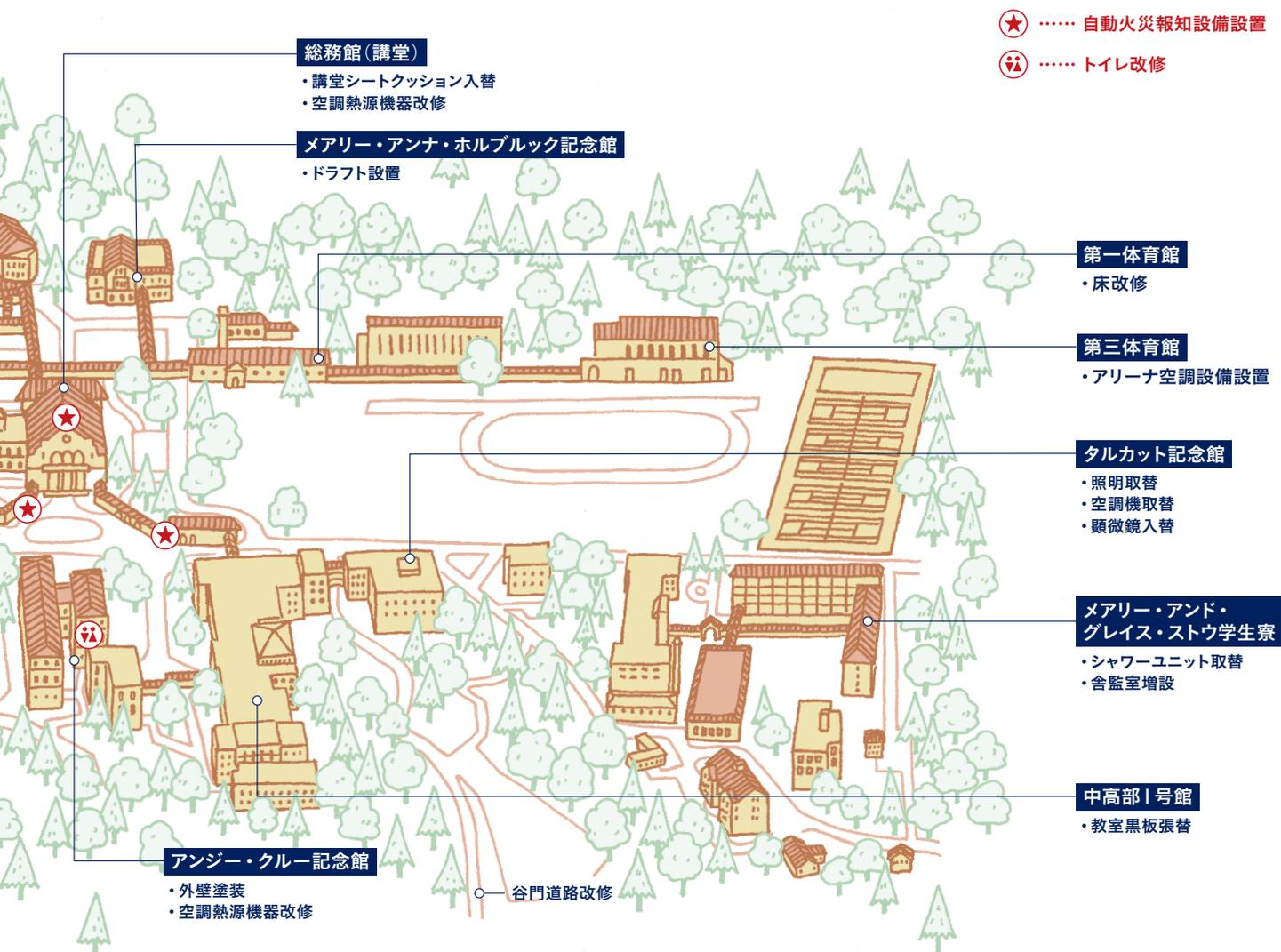
教育環境の整備のため、文学部2号館32、33、34室の改修を行いました。壁面の塗装、床の張り替え、机・椅子の入れ替えを行い、照明をLEDに交換。教室の印象がぐんと明るくなりました。固定席の32室には、これまで用意できなかった車椅子用の席を設置しました。

デフォレスト記念館2階の6つの小教室（201～205、207）の映像設備は2014年度からの3年計画で順次更新し、2016年度で完了しました。また、文学館1室の音響・映像設備の全面改修も行いました。いずれの教室も使用頻度が高く、教育効果の向上が期待できます。

理学館8室（臨床心理学実習室）と10室（行動科学基礎実習室）では椅子の入れ替えを行い、より快適で使いやすい教室となりました。



1 明るくなった教室（文学部2号館32室） 2 実習室の椅子の入れ替え（理学館8室） 3 視聴覚設備の更新（デフォレスト記念館207室）



環境整備 大学の取り組み

熱中症予防に、第三体育館の空調設備を整備

学生の授業評価アンケートで夏季・冬季の厳しい授業環境への改善要望が絶えなかった第三体育館。熱中症対策および授業環境の改善として空調設備を整備することで、主にスポーツ系種目を行う場所としてのよりよい環境が整いました。今回の整備により、学生のニーズが高いフィットネス系種目の大人数での実施も可能になり、生涯スポーツの実践者の育成を目指す体育学においては運動・スポーツとの関わり方である「する」ことをより快適に行えるだけでなく、「みる」ことも積極的に学習課題とすることが可能になります。また、雨天時の卒業式茶話会の会場としても活用する予定です。

環境整備 中高部の取り組み

タルカット記念館、アンジー・クルー記念館の設備をリニューアルし、学習環境を充実

建築から37年が経過したタルカット記念館、阪神・淡路大震災後に建設され19年が経つアンジー・クルー記念館。それぞれ設備の老朽化や建物の傷みが激しく、2016年度にメンテナンスと設備のリニューアルを行いました。

タルカット記念館は、講義室や実験室などの空調室内機の入替替え、照明器具のLED化を実施しました。またアンジー・クルー記念館はとくに空気中の汚染物質を含んだ雨だれの影響による外壁の汚れ・傷みが顕著だったため、外壁そのものだけでなく、サッシと外壁の隙間などにも雨だれが伝わりにくいような処理をしました。さらに空調室外機の取り替えも同時に実施。なお、建設当時は一般的

だった和式トイレも、生活様式の変化に伴い家庭でも姿を消しつつあることを考慮し、洋式トイレへの改修も行いました。今後もより質の高い教育環境整備のために取り組みを続けます。



建設当時の美しい表情を取り戻したアンジー・クルー記念館。

環境整備 大学の取り組み

理学館屋上の温室・倉庫をリニューアル

理学館屋上にあった温室が老朽化したため撤去し、代わりの温室とプレハブ倉庫を設置しました。ほかにも、系統保存のためメダカを飼育している水槽のまわりに水道栓をつけるなどの屋上整備を行いました。プレハブ倉庫にはミツバチの観察巣箱を設置し、教育と研究に活用しています。この観察巣箱を用いることで、環境・バイオサイエンス学科の2016年度卒業研究「都市におけるセイヨウミツバチの餌資源利用-ダンス解析の基礎研究」という成果が生まれました。また、ミツバチの観察巣箱は、理学館体験や本学で行われた各種自然観察会などで年間6回程度公開し、学外から約220名の見学者がありました。ほかにも本学高等学部生徒の見学やサイエンス・キャンプでの実習などにも利用されています。

屋上に設置したプレハブ倉庫には、ミツバチの観察巣箱があり、教育・研究に役立てられています。



環境整備 大学の取り組み

学生寮のシャワーユニットを新調

竣工以来使用してきたシャワーユニットの傷みが激しく、全シャワーユニット（32カ所）の交換を行いました。今後も快適な寮生活の運営に努めていきます。



学習環境 中高部の取り組み

顕微鏡を新たなものに入れ替え

観察用の顕微鏡を新調したことにより、生徒全員が同じ機種の顕微鏡で観察できるようになりました。従来の顕微鏡より視野が明るく、操作が簡単になりました。



学習環境 大学の取り組み

IT教育の充実やセキュリティ対策のため
教育系システム・学内ネットワークをリプレイス

2011年度夏に教育系システムと学内ネットワークのリプレイスを実施してから5年。設備・機器が老朽化し、時代のニーズに合わなくなったため、それぞれのリプレイスを実施しました。目的は、高度なIT系教育設備を継続的に運用することと、最近のセキュリティ動向をふまえ、既知の攻撃だけでなく未知の攻撃への対処も考慮しセキュリティに十分配慮したシステムにすることです。シングルサインオン環境など、利用者の利便性を高めるとともに、運用管理業務の高度化・効率化も図っています。

パソコン教室の整備では、デジタル化への対応やSSDの活用による高速なレスポンスが可能になり、授業や自習の際にもストレスを感じにくいパソコン利用環境を実現しました。学内ネットワーク



では、従来どおり仮想LANを構築することで、場所にとらわれない研究・事務業務を可能にすると同時に、論理的にネットワークを分割することにより、サイバー攻撃での侵入など万一の場合の被害の軽減も図っています。

学習環境 大学の取り組み

無線LANの整備が完了
学習意欲向上に貢献

キャンパス全域において無線で学内LAN (KC-NET) へアクセスできるようにする無線LAN整備事業を2014年度から進めてきましたが、2016年度末をもって設備整備が完了しました。これにより、キャンパス内の全教室・学生の利用する主要な場所で無線LANの利用が可能になりました。どの教室でもノートパソコンやタブレットなどのモバイル機器を用いた新しい形態の授業が実施可能になります。授業で使用するための貸し出し用のiPadも全62台整備。また、学生や教職員のスマートフォンなど個人のデバイスからも無線LAN (Wi-Fi) でインターネット接続が可能になり、学生の学習意欲向上などの効果も期待されます。

学習環境 大学の取り組み

新たなe-Learningシステムを導入

英文学科と共通英語教育研究センター科目において利用していた英語自学自習ツール「ALC NetAcademy 2」の契約期間終了に伴い、2017年度より「ATR CALL BRIX」を導入します。教職員向け研修を2016年度中に行い、2017年度より（英文学科は前期より、共通英語教育研究センターは後期より）授業での活用を開始。学生の英語力向上へ一層の効果が期待できます。

学習環境 中高部の取り組み

中高部PC、Windows 10へアップグレード

2016年7月に、Microsoft Windows 7および8.1をWindows 10へ無償アップグレードできる期間が終了。各家庭でもアップグレードが完了していることを想定し、無償提供期間が終了した直後の春休みに学内のコンピュータの更新作業を行いました。ITセンターのコンピュータ教室1、2、英語科のLL教室1、2のコンピュータにおいて作業を完了しました。

学生支援 大学の取り組み

入試や学生生活における障がい者支援を実施

障がいを持つ学生が入学試験や学生生活をスムーズに行えるように、車椅子学生の移動に配慮した正課授業の教室変更・席の確保、聴覚障がい学生に対するノートテイクなど、学生の状況に応じた様々なサポートを実施しました。これらは学生生活支援センター、学生主事会、学生支援ネットワーク、各所属学科などとの連携で実現したものです。

また、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づき、本学の「障がい学生支援に関する基本方針」を定めました。今後もすべての教職員が、障がいを理由とする差別の解消に取り組み、障がいのある人がそうでない人と平等に教育・研究に参加できる機会を確保するよう取り組んでいきます。

「障がい学生支援に関する基本方針」：<http://www.kobe-c.ac.jp/about/shogaigakusei-shien.html>

学生支援 大学の取り組み

過去最多159社の参加など キャリア支援講座が充実

学生が自身の適性と希望に合った進路を選択するために、学ぶ場・知る場をしっかりと提供することを目標に掲げ、毎年約130回のプログラムを実施しています。2016年度は2つの講座を新たに開講しました。1つ目は「業界探求セミナー」で、産業トレンドや各業界の今後の動向について身近な例から学ぶものです。2つ目は神戸市によるセミナー。本学でも公務員を目指す学生が増えており、2回の公務員ガイダンスのほか、採用の立場の方から話を聞く機会を設けました。

学内で行う企業セミナーには、過去最多となる延べ159社に参加いただき、多くの優良企業を紹介する機会となりました。

5月11日開催「第1回就職ガイダンス」の様子。3年生349人が出席しました。



学生支援 大学の取り組み

奨学金のさらなる充実を目指して

2016年度の学内奨学金制度の受給実績は、貸与型奨学金が49名、給与型奨学金が43名（内訳：「入学試験成績優秀者給与奨学金」30名、「一粒の麦給与奨学金」1名、「HAS給与奨学金」10名、「那須姉妹特別奨学金」1名、「森本敦子記念奨学金」1名）でした。

東日本大震災被災地域の受験生に対する授業料免除制度は2名が継続受給。熊本地震被災地域の受験生に対する授業料免除制度と、学力が優秀かつ経済的に困窮度の高い学生が対象となる給与型奨学金制度の新設を検討し、2017年度から運用する予定です。

今後も学生が安心して学業に専念できるよう、奨学金制度を充実させていきます。

生徒支援 中高部の取り組み

中高部生を対象とした TAK's Support奨学金

中高部の生徒を対象とした奨学金が2016年度より施行されました。これは本学の中高部を卒業され、デザイナーおよび建築家としてご活躍の今竹翠氏によって、創造性・感性の醸成を若い時期に支援することを目的として設けられたものです。西宮市民文化賞等デザインの分野で数々の大きな成果を挙げられている今竹氏が、「学業面にとどまらない広い分野でとくに優れた資質を持ち、将来の夢へ向け羽ばたこうとする若い力に育ってほしい」と、ご自身の後輩のために立ち上げられました。初年度にあたる2016年度にはその想いにこたえて3組の応募があり、その中から「全国中学・高校ディベート選手権」出場チーム4人に対して交通費・宿泊費が支給されました。

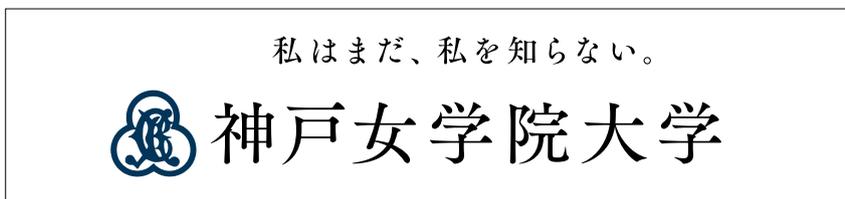
広報強化 大学の取り組み

大学広報の見直しとして、ブランディングの取り組みに着手

2018年に迎える18歳人口の減少を踏まえ、本学では2014年より大学教職員からなるワーキンググループを立ち上げ、2016年7月まで活動を続けました。ワーキンググループでは、主に教学内容について議論を重ねましたが、その過程で本学の広報体制の脆弱さが課題として浮き彫りになりました。

そこで、これまで学内みのみのスタッフで進めていた広報体制を見直し、2016年度からは広報に関する専門的な知識を持つ外部業者の力を借りて、大学のブランディングに取り組みました。初年度となる2016年度は、具体的には以下を実施しました。

①学生調査：学生にインタビューを実施、学生から見た本学の長所や欠点について分析・整理



「私はまだ、私を知らない。」：「自分は知らない」と自覚することから、「知りたい」という欲求は生まれ、「知ろうとし続ける」姿勢につながります。それは卒業後も人生の指針となる一生ものの姿勢を身につけることでもあります。

- ②教職員アンケートとベンチマーク調査：教職員全員に対するアンケートを実施するとともにベンチマークとなる他大学を調査。それらの結果を分析し、本学が今後強みとして打ち出していくべき点を抽出
- ③広報物調査：学内各部署で発行されている広報物（WEB媒体を含む）を調査

- ④タグライン※の制作：②をもとにした、本学の魅力を表すタグラインの制作
 - ⑤ロゴの整理：校章および大学名の表記についての整理
- 2017年度に向けては、①～⑤をもとに具体的な広報戦略を策定し、展開していく予定です。

※タグラインとは：組織の内部や外部（顧客等）に対して、組織やブランドが持つ感情面と機能面の優れた点をわかりやすく伝えるための表現。

広報強化 大学の取り組み

SNSを活用した広報活動をスタート

学長室（広報）では、2016年10月にソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の公式アカウントの運用を開始しました。現在運用しているのはFacebook、Twitter、Instagramの3つです。また、同時にYouTubeの公式チャンネルも開設しました。

Facebookは大学からのニュースやイベント情報の発信、Twitterは在学生向けに学内でのイベント情報等の発信、そしてInstagramは学内風景写真を掲載しています。

Facebookは2017年3月末日時点で多くの方から「いいね！」をいただき、投稿記事にも多くの反応をいただいています。中でも2016年12月26日に投稿した「NHK連続テレビ小説『べっぴんさん』のロケが行われました！」には、開設以降で最多の「いいね！」をいただくなど、大きな反響を得ました。

SNSでは、四季折々の美しいキャンパスやイベントの様子なども随時発信されています。



広報強化 大学の取り組み

入学センターが文学館1階へ移転

2016年9月16日に入学センター事務室が、図書館本館1F（T-14）から、文学館1F（L-41）、旧文学研究科大学院生研究室へと移転しました。デフォレスト記念館に面した入口には自動ドアが設置され、明るく機能的なデザインになり、初めて本学を訪問される来客・受験生にもとてもわかりやすいと好評です。

また、移転開式は9月21日新入学センター前において中野チャプレンの司式のもとで挙行されました。黙祷、讃美歌402番の合唱、司式者の聖書朗読（マタイによる福音書7章7～8節）に続いて齊藤学長が挨拶し、その後、中野チャプレンにより新事務室が豊かに用いられるようにと祈禱が捧げられました。

初めて本学を訪れる方にもわかりやすい場所へと移転。明るく機能的なデザインになりました。



大学で学ぶ楽しさを高校生に伝える「高大連携」の取り組みを実施

高大連携の取り組みとして、2015年度に引き続き「書評コンテスト」と「サイエンス・キャンプ」を実施しました。

「書評コンテスト」は、本学が学生のために選定している「神戸女学院の100冊」を課題として書評を書くもので、本学の高大連携協定高校の生徒を対象に行いました。2016年度は前年度を大きく上回る101作品の応募があり、その中から最優秀賞1点と佳作2点（優秀賞該当なし）が選ばれました。11月には受賞者を招いて本学にて表彰式を行い、それぞれの作品についての本学教員によるコメントも披露されました。

「サイエンス・キャンプ」は、環境・バイオサイエンス学科が主催しているもので、同じく高大連携協定を結んでいる高校の理系コースに学ぶ生徒を対象に、高校で

履修している化学や物理が、大学の研究の基礎としていかに重要であるかを実感してもらうことを目的に実施しています。2度目となる2016年度は、13名の生徒が参加し、本学に宿泊する1泊2日のスケジュールで、「ダイエット効果の高いスーパーフードを探そう」「ミツバチのダンスから学ぶ」等の実習に取り組みました。また、環境・バイオサイエンス学科の3・4年生と大学院生がともに宿泊し、自由時間に理系学科で学ぶ楽しさや大学生活について、理系に進むことへの不安等、様々な話をする機会を持つことができました。

上記以外にも本学では、出張講義、高校生招聘プログラム、本学での体験プログラム等、様々な取り組みを通して、大学で学ぶ楽しさを高校生に伝えられるような高大連携のプログラムを推進しています。



受賞した高校生3名を招いての本学での表彰式



教員指導のもと、実験に取り組む高校生の皆さん

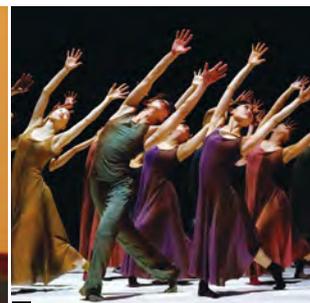
各学部の学びの成果を、地域社会に還元

2016年度も様々な形で教育研究の成果を地域に還元しました。音楽学部主催の定期演奏会、舞踊公演、「子供のためのコンサート」や「金曜日公開プログラム」、研究所や女性学インスティテュートが主催する講演会など長年続くものも多く、地域に親しまれています。

「地域創りリーダー養成プログラム」の授業では、地域の団体と協力して地域課題解決に主体的に取り組んでいます。その中の1つがオリジナルゲーム「防災ウォッチ」を使った取り組み。災害時の危険や身を守る助けになるものを妖怪キャラクターに見立て、子どもたちがゲーム感覚で防災を学べるようにしたものです。この取り組みは毎日新聞主催の「ぼうさい甲子園」で奨励賞を受賞。今年度は市内の防災訓練の「子ども防災コーナー」を6回担当するなど学生の活躍が多く見られました。



1 「ぼうさい甲子園」で奨励賞を受賞



2 舞踊公演 3 研究所主催講演会

産学官連携 大学の取り組み

産学官連携の取り組みにより、様々な商品開発に参加

人間科学部では教員を中心に、企業と共同での商品開発、企業に関わる受託研究、共同研究などをコンスタントに行っています。また、教員がそれぞれの専門分野で知見を有するものとして、地方公共団体等の委員を委嘱されることも多くあります。

2016年度からは、西宮市の大学連携課を介して新たに地域企業との連携活動が始まりました。1つは、通訳・翻訳プログラムを履修している学生70人が、ヨットハーバーの英語版ビジター用ホームページ作成を学内コンペ方式で競い、優秀作品が実際に採用されるというもの。もう1つは、環境・バイオサイエンス学科の高岡教授ゼミの3年生と酒造メーカーが共同で、発酵食品を使った商品開発を行うものです。これは西宮市が2016年

度より始めた「産学官連携による西宮ブランド商品創造事業」に採択された事業です。上記の活動には、どちらも学生が参加し、知識やスキルが社会に役立つものとなるという貴重な機会を与えられました。

同じく「産学官連携による西宮ブランド商品創造事業」として、「株式会社フェリシモ」が、市内の企業や学生とともに猫にまつわる商品を開発し、西宮産品のブランド化を図る事業をプロデュースすることになり、本学の学生5名が参加しました。プロジェクト名は「にしのみにゃ部」です。学生はフェリシモの社員から商品企画、販売促進などについてレクチャーを受け、ともに7つの商品（食品）を企画し、実際に販売されることになりました。



開発商品は「フェリシモ猫部 西宮ガーデンズ店」にて販売しています



にしのみにゃ部参加者

国際化 大学の取り組み

アジア圏における新規協定とネットワーク拡大

2016年度は、急成長を続けるアジアにおける協定拡大を目標に掲げ、4つの新たなアジア圏の大学との関係をスタートさせました。4月に韓国の淑明女子大学と大学間協定ならびに交換留学協定を締結したのをはじめ、AUPF（Asian University Presidents Forum）に学長が参加。1月に台湾の文藻外語大学と大学間協定と交換留学協定を締結し、2月には中国揚州大学およびタイキリスト教大学と大学間協定を結びました。

さらに、ACUCA（Association of Christian Universities and Colleges in Asia）への加盟も申請しました。ACUCAは、1976年にアジアにおけるキリスト教主義高等教育機関の相互協力等を目的に創設され、現在アジア圏の8カ国、約60大学が加盟しています。この加盟により、今後ますますアジア圏でのネットワーク拡大が期待されます。



2016年11月AUPFにて（前列左端に齊藤学長）

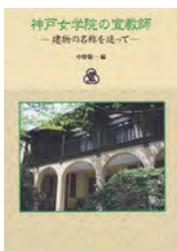
出版

『神戸女学院の宣教師 — 建物の名称を追って—』を出版

本学院では、建学の精神への理解を深める学びの場として、2006年から「学院リトリート」を年1回開催してきました。そのうち2011年から2014年に行われた講演の内容を記録したものが本書であり、本のタイトルは講演の共通主題になっています。講演は8名の教職員が担当しました。

本学院の10棟の建物は、宣教師の功績を称えてその名前を冠したのですが、時が流れるとともにそれらの先生について語れる人が減少しています。名前だけでなく宣教師の人物像や具体的な業績を知ることにより、学院が大切にしてきた伝統についての理解が深まるようにと出版されました。さらに本書を通じて歴史ある建物への愛着が増し、先人との時を超えた交流が与えられることも期待されます。

表紙：デフォレスト先生をはじめ、宣教師の住居であった「ケンウッド館」



管理運営

育児支援の一環として 大学祝日開講日に学内託児を実施

2016年度から、育児支援の一環として教職員の児童を対象に学内託児を始めました。大学の教職員組合からとくに要望が多かった年4日の大学祝日開講日に実施し、8時30分から18時30分までの時間内で、教職員それぞれの勤務時間に合わせて利用できるようにしました。運営は、育児用品のピジョンの関連会社であるピジョンハーツ株式会社に委託し、保育士の派遣に加えて、託児場所（社交館）の安全確保から玩具の用意まで十分な体制で対応いただきました。多い日で10名を超える児童数となりましたが、児童たちはすぐに慣れて、帰り際には他児童や保育士の先生に「また遊ぼうね」と手を振って帰っていき姿が見られました。

社交館での託児風景。保育士の先生方とたくさんの玩具に囲まれて。



管理運営

学生・生徒の安全確保のため セキュリティ対策を強化

セキュリティ強化のため、関連部署職員による「セキュリティ強化プロジェクト」を発足し、2016年度は理学館、理学館別館、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館、危険物倉庫の人間科学部関連4棟について対策を実施しました。理学館西側・北側入口およびホルブルック館2階・3階の入口、計4カ所に入退館管理装置を設置。平日夜間や休日には自動施錠し、本学関係者以外の侵入を防止します。また理学館とホルブルック館には鍵管理装置を導入し、学生や教職員が授業等で必要な鍵を装置から取り出せる仕組みを構築しました。いずれも教職員証および学生証（2017年度よりIC化）での開錠操作を行うことになります。

学生・生徒の安全確保のために、今後もセキュリティの強化に取り組みます。

理学館に設置された鍵管理装置



管理運営

寄付の新しいスタイルとして 「神戸女学院古本募金」を開始

教育振興会募金事業では、2014年度以降3年連続で4,000万円を超えるご寄付を賜りました。お預かりしたご寄付は、とくに指定がない限り「神戸女学院岡田山キャンパス創建建築保存再生計画に沿って改修を実施するための費用」および「学生生徒の奨学基金への積み立て」の2つの事業に活用しています。

また2015年12月より「神戸女学院古本募金」を開始しました。読み終えた本やDVDなどを本学院で寄付として受け取り、それらを業者が買い取ることで換金額を募金として受領する仕組みです。気軽にご参加いただくことで、在学生や若手のご卒業生にも本学の一員として支え合う実感を持つきっかけに繋がっていただければと願っています。開始以来100万円を超える寄付額となり、全国でもトップクラスの実績となっています。

古本募金の回収ボックスは、総務館・デフォレスト記念館に設置しています。



Close-up people 2016



Point
01

成績優秀者として 留学先で賞を受賞！

大学

アメリカ・ロックフォード大学に留学していた文学部英文学科の花田さんが、現地で成績優秀者に贈られる「MacLeish Scholar」賞を受賞しました。花田さんが留学を志すきっかけになったのは、本学を訪れたロックフォード大学留学生との交流です。学内の国際交流センターと現地 Kobe College Corporation のサポートにより、2年・3年での各9ヶ月間の長期留学を実現しました。留学期間中は語学以外の幅広い学びにも挑戦し、その中で修めた優秀な成績が高く評価されました。2017年には本学も卒業、両校での学位取得を実現しました。



2016年10月14日、15日に台湾の台北市で開催された芸術祭「Kuan Du Arts Festival」に音楽学部 舞踊専攻の学生9名が招待され、コンテンポラリーダンス2作品を披露しました。この芸術祭は1993年から毎年台湾で開催されているもので、2016年度は世界10カ国から約100グループ（個人参加者を含む）が参加。このような海外での公演を通して、参加した学生一人一人が、ボーダーレスなコミュニケーションツールとしての舞踊の有効性を肌で感じる事ができました。2014年のマレーシア公演、2015年のベルギー公演に続き、この度の台湾公演でも、高い評価を得ました。



Point
02

台湾の芸術祭で 高い評価を獲得

大学

撮影：吾心不二

数字で見る神戸女学院



大学 「THE 世界大学ランキング 日本版」分野別にランクイン！

本学の教育満足度・国際性を評価されました

「世界大学ランキング」を発表しているイギリスの教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が、日本版のランキングを初めて発表し、本学がランクインしました。※1

1位 & **2**位
教育満足度※2 国際性※2

「教育満足度」は、高校教員の評判調査における「グローバル人材育成に力を入れている」「生徒の力を伸ばしている」という設問の得票数から算出されたものです。「国際性」は、外国人教員比率と外国人学生比率から算出されたものです。

大学 大手企業への就職割合

53.5%の学生が従業員数
1000人以上の大手企業に就職しています。

53.5%
(2016年)

2016年度も、本学での学びを生かして海外や社会と繋がり、大きな成果を上げた学生・生徒がたくさんいます。その中から、注目すべき取り組みと成果についてご報告いたします。



Point
03

学び舎を案内する ツアー・マイスター

大学

岡田山キャンパス創建時のヴォーリス建築12棟の重要文化財指定答申を受け、2014年6月から始まったツアー・マイスター養成講座。1期生30名、2期生8名に続いて、2016年度は3期生46名が認定されました。研修を受けてデビューしたマイスターの学生たちは、一般公開日や西宮市のまち歩きイベントなどでガイドを務めることで、より深く母校を知り、愛着を深めてゆきます。その意欲的な活動は、NHK BSプレミアム「美の壺」: <心のふるさと 学び舎>でも紹介されました。2017年度からは、自校教育の一環としてプロジェクト科目が開設され、単位の取得も可能になります。

中高部・高3の生徒1名と高2の生徒1名の計2名が2016年4月10日～16日に、ルーマニアのブシュテニで開かれたヨーロッパ女子数学オリンピック(EGMO)第5回大会に日本代表として参加し、2名とも銅メダルを獲得しました。毎年成績上位者4名が日本代表として選抜されています。日本は2014年の第3回大会からEGMOに参加しており、それまでも本校生徒は、2014年第3回大会に1名が銀メダル、2015年第4回大会に1名が銅メダルを獲得しています。生徒達は、国際大会に出場することで、他国の代表と交流を深め、他で味わえない貴重な体験をしました。



Point
04

女子数学オリンピック 日本代表で出場

中高部

大学 学内で説明会を行った企業数
(2016年)

本学学生を採用する意向を持つ企業を招き、学内で採用説明会を実施していただきました。

159社

詳しくはP.14へ▶▶▶

中高部 中3の英検準1級合格者数(2016年)

受験は任意ですが、毎年
中3生の合格者数が増加。
大多数が2級以上に合格
しています。

10人

中高部 TOEFL ITP平均点(2016年)

毎年高3生全員(約140人)が受験。平均点は
年々上がり、600点以上の生徒も出ています。

494.3点

入学定員・収容定員・在籍者数 (2016年5月1日現在)

神戸女学院大学

文学部	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
英文学科	150	175	570	703
総合文化学科	200	237	800	916
計	350	412	1,370	1,619
音楽学部				
音楽学科	46	49	186	185
	(編入) 1	0		
計	47	49	186	185
人間科学部				
心理・行動科学科	90	104	360	394
環境・バイオサイエンス学科	80	90	320	365
計	170	194	680	759
大学 計	567	655	2,236	2,563

*2016年度より英文学科の入学定員を140名から150名に増員

神戸女学院大学大学院

文学研究科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数	
英文学専攻	博士前期課程	13	6	26	12
	博士後期課程	2	0	6	2
比較文化学専攻	博士前期課程	5	1	10	6
	博士後期課程	2	0	6	0
計	22	7	48	20	
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10	12	20	23
	博士後期課程	2	1	6	4
計	12	13	26	27	
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7	8	14	17
大学院 計	41	28	88	64	

神戸女学院中高部

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍生徒数
中学部	135	144	405	424
高等学部 全日制課程 普通科	—	—	405	402
中高部 計	135	144	810	826

在籍者数推移

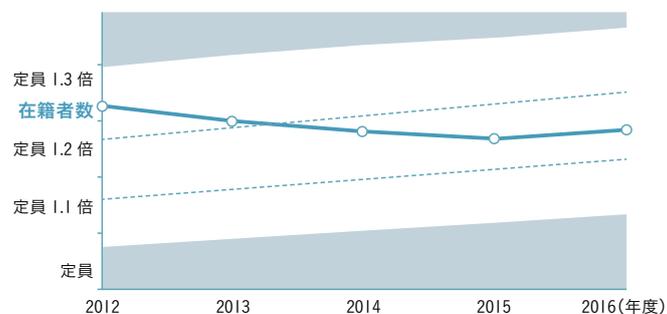
神戸女学院大学

学部名	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
文学部	1,653	1,606	1,588	1,615	1,619
音楽学部	205	206	183	180	185
人間科学部	795	784	796	772	759
計 (A)	2,653	2,596	2,567	2,567	2,563
定員 (B)	2,148	2,178	2,207	2,226	2,236
(A)/(B)	1.24	1.19	1.16	1.15	1.15

*2012年度より総合文化学科の入学定員を180名から200名に増員

*2012年度より音楽学科の一年次入学定員を47名から46名とし、編入学定員を1名に変更

*2016年度より英文学科の入学定員を140名から150名に増員



神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
文学研究科	35	26	23	23	18
人間科学研究科	19	18	22	22	23
音楽研究科	14	11	13	18	17
計	68	55	58	63	58

博士後期課程					
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
文学研究科	3	3	4	4	2
人間科学研究科	2	2	5	3	4
計	5	5	9	7	6

神戸女学院中高部

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
中学部	420	416	423	419	424
高等学部	429	429	418	411	402
計	849	845	841	830	826

志願者数・合格者数・入学者数

神戸女学院大学

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
志願者数	3,297	3,454	3,692	3,753	3,539
合格者数	1,342	1,461	1,656	1,741	1,668
入学者数	623	630	644	655	684

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
志願者数	40	48	41	44	39
合格者数	25	34	30	31	29
入学者数	23	20	28	27	28

博士後期課程					
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
志願者数	3	4	1	2	1
合格者数	2	4	1	1	1
入学者数	2	4	1	1	1

入試制度別状況

			志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験	前期 A 日程	3 科目型	432	427	203	2.1
		2 科目型	532	524	255	2.1
		音楽学科	24	24	20	1.2
	前期 B 日程		454	448	214	2.1
	前期 C 日程		379	199	77	2.6
	前期 D 日程					
大学入試センター試験 を利用する入学試験	前期日程	センター 1 科目型	178	93	39	2.4
		センター 2 科目型	116	53	25	2.1
		2 科目型	193	193	125	1.5
	後期日程	3 科目型	106	106	52	2.0
		4 科目型	52	52	32	1.6
		2 科目型	63	63	34	1.9
後期日程	3 科目型	38	38	18	2.1	
	4 科目型	20	20	10	2.0	
	一般入学試験 後期日程		168	156	71	2.2
公募制推薦入学試験			567	567	289	2.0
AO 入学試験			29	29	21	1.4
帰国子女入学試験			3	2	1	2.0
社会人入学試験			0	—	—	—
外国人留学生入学試験			0	—	—	—
編入学試験			0	—	—	—
国際バカロレア入学試験			0	—	—	—

今年度の傾向

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の志願者数・合格者数・入学者数

2017年度入試も「文高理低」の傾向が見られました。本学では①入学試験成績優秀者奨学金制度、②国際バカロレア入試制度の導入、③公募制推薦入試における音楽学科の専攻間併願可、等を実施しました。志願者数は前年度比94%でしたが、公募制推薦入試および一般入試の入学手続率が高く、必要想定人数を超える入学者を確保することができました。次年度は、英文学科での英語資格試験利用型入試とAO入試の導入が決まっておりますが、引き続き本学の教育理念にかなった入学者の確保を目指します。

神戸女学院中高部

中学部					
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
志願者数	257	214	223	255	260
合格者数	153	153	157	162	158
入学者数	141	141	140	145	143
転入学者数	—	1	0	—	—

高等学部					
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
編入学者数	—	1	—	—	—

*高等学部 全日制課程 普通科 募集なし

留学

神戸女学院大学、大学院

本学から海外へ 総計 **116**人

プログラム	大学名	国名	人数
派遣留学	ロックフォード大学	アメリカ	2
	ワイオミング大学	アメリカ	1
	サムヒューストン大学	アメリカ	1
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	1
	イーストアングリア大学	イギリス	1
	広東外語外貿大学	中国	2
	梨花女子大学	韓国	1
	ミリアム大学	フィリピン	2
	アサンブション大学	フィリピン	2
	国別集計		アメリカ
		イギリス	1
		中国	2
		韓国	1
		フィリピン	4
長期派遣		計	13

プログラム	大学名	国名	人数
認定留学	カリフォルニア州立大学 モンレーベイ	アメリカ	1
	モーツァルテウム音楽大学	オーストリア	2
	計		3

プログラム	大学名	国名	人数
中期 英語留学	チャタム大学	アメリカ	5
計			5

プログラム	大学名	国名	人数
中期 海外研修	ヨーク大学	カナダ	7
	クイーンズランド大学	オーストラリア	7
計			14

プログラム	大学名	国名	人数	
語学研修	夏期：ヨーク大学	カナダ	19	
	夏期： 西オーストラリア大学	オーストラリア	9	
	夏期： フランシュコンテ大学	フランス	3	
	夏期：カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	15	
	春期： クイーンズランド大学	オーストラリア	18	
	春期：ヨーク大学	イギリス	11	
	春期： 広東外語外貿大学	中国	3	
	春期：梨花女子大学	韓国	3	
	国別集計		カナダ	19
			オーストラリア	27
		イギリス	11	
		アメリカ	15	
		フランス	3	
		中国	3	
	韓国	3		
計			81	

今年度の傾向

神戸女学院中学部の志願者数・合格者数・入学者数

2014・2015年度に減少傾向にあった志願者数は、2016年度には2013年度の水準に戻り、2017年度にはさらに微増ではありましたが増加傾向に転じています。遠隔地からの志願者数もほぼ例年どおりで、歩留りが読みにくい中追加合格を出すこともなく、2017年度は143名の入学者を新入生として迎えることができました。

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の留学について

2016年度本学から海外への留学・研修派遣人数は116名と、昨年度121名から微減でした。各所で発生するテロの影響があるものの、過去最高の7カ国（昨年度4カ国）での語学研修開催は本学の学生のグローバル化の一端を示しています。海外から本学への受入人数は57名と昨年度63名から減少しましたが、昨年度から大きな変更点はありません。

海外から本学へ 総計 **57**人

プログラム	大学名	国名	人数	
交換留学	イーストアングリア大学	イギリス	2	
	ロックフォード大学	アメリカ	1	
	ボーリンググリーン大学	アメリカ	1	
	徳成女子大学	韓国	3	
	広東外語外貿大学	中国	2	
	国別集計		イギリス	2
			アメリカ	2
			韓国	3
		中国	2	
長期受入		計	9	

プログラム	大学名	国名	人数
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	12
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	5
HONOR	ワイオミング大学	アメリカ	10
—	ボーリンググリーン大学	アメリカ	9
—	アサンプション大学	フィリピン	10
—	モーツアルテウム音楽大学	オーストリア	2
短期受入		計	48

神戸女学院中高部

本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数
交換留学	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1
公認留学	Queen's High School	ニュージーランド	1
	Otago Girls' High School	ニュージーランド	1
	Someron lukio	フィンランド	1
		計	4

海外から本学へ

国名	人数
オーストラリア	3
フランス	1
計	4

卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部		計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	心理・行動科学科	環境・ バイオサイエンス 学科	
2012年度	186	227	50	98	91	652
2013年度	165	226	55	98	83	627
2014年度	149	203	52	105	97	606
2015年度	169	225	40	104	91	629
2016年度	154	214	50	90	84	592

*前期末(当該年度9月)卒業を含む

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科			音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2012年度	12	3	2	7	10	34
2013年度	7		1	7	7	22
2014年度	5		4	4	10	23
2015年度	4		6	9	10	29
2016年度	5		1	9	10	25

*前期末(当該年度9月)卒業を含む

博士後期課程

博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2012年度	—	—	1	1
2013年度	—	—	—	—
2014年度	—	1	—	1
2015年度	1	—	—	1
2016年度	1	—	3	4

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2012年度	—	1	—	1
2013年度	—	1	—	1
2014年度	1	—	—	1
2015年度	2	—	1	3
2016年度	1	—	—	1
博士後期課程 設置当初からの 累計	9	2	13	24

神戸女学院中高部

	中学部	高等学部
2012年度	142	139
2013年度	134	144
2014年度	141	143
2015年度	139	139
2016年度	140	128

就職・進学状況

神戸女学院大学

2016年度の就職率（就職希望者に対する就職者の比率）は98.8%で、前年度を0.8ポイント上回り、近年5年で最も高い比率となりました。産業別では、金融・保険業が減少し、代わって製造業の比率が増加する傾向がみられました。景況感の高まりもあり、大企業（従業員1,000人以上）への就職割合については、53.5%と高い水準となりました。

主な就職先（2017年3月卒業生）

建設業	フォーカスシステムズ	阿波銀行	宿泊業
熊谷組	富士ソフト	百十四銀行	ウェスティンホテル大阪
大和ハウス工業	讀賣テレビ放送	伊予銀行	神戸メリケンパーク オリエンタルホテル
高松建設	運輸業、郵便業	四国銀行	阪急阪神ホテルズ
竹中工務店	全日本空輸	西日本シティ銀行	医療、福祉
積水ハウス	ANA エアポートサービス	佐賀銀行	社会医療法人愛仁会 明石医療センター
銭高組	ANA 大阪空港	熊本銀行	社会医療法人大道会
製造業	ANA 関西空港	三井住友信託銀行	野崎徳洲会病院
IDEC	ANA スカイビルサービス	三菱 UFJ 信託銀行	淀川キリスト教病院
あみだ池大黒	日本航空	北おおさか信用金庫	教育、学習支援業
合同製鐵	ジェイエア	尼崎信用金庫	神戸市中学校高等学校教員
ゴンチャロフ製菓	JAL スカイ	但陽信用金庫	大阪府高等学校教員
山陽特殊製鋼	JAL スカイ大阪	姫路信用金庫	大阪府中学校教員
サラヤ	スターフライヤー	兵庫信用金庫	島村楽器
シーボン	日本郵便	兵庫六甲農業協同組合	独立行政法人高齢・障害・ 求職者雇用支援機構
ジョンソン・エンド・ジョンソン	丸二倉庫	あいおいニッセイ同和損害保険	サービス業
スズキ	三菱倉庫	損害保険ジャパン日本興亜	高見（TAKAMI BRIDAL）
TASAKI	SG ホールディングス	三井住友海上火災保険	JTB 関西
東ソー	卸売業、小売業	SMBC 日興証券	JTB 西日本
トラスコ中山	青山商事	大和証券	エン・ジャパン
トンボ	アズワン	三菱 UFJ	マイナビ
日本圧着端子製造	イプサ	モルガン・スタンレー証券	エイチアールワン
日本食研ホールディングス	岩谷産業	野村證券	セコム
日本信号	住友商事マシネックス	アメリカンファミリー生命保険	一般社団法人日本自動車連盟
日本精工	ダイワボウ情報システム	かんぽ生命保険	ジャパン・アーツ
日本電産テクノモータ	野村貿易	住友生命保険	京都監査法人
ノエビア	阪急阪神百貨店	第一生命保険	長島・大野・常松法律事務所
パナソニック	P&G プレステージ	日本生命保険	全国農業協同組合連合会
システムネットワークス	ビームス	三井住友海上あいおい生命保険	公務
ミズノ	富士貿易	明治安田生命保険	枚方市
三菱製鋼	ホンダカーズ大阪	オリックス	兵庫県
ヤンマー	レリアン	クレディセゾン	神戸市
淀川製鋼所	金融業、保険業	三井住友	尼崎市
ローム	みずほフィナンシャルグループ	トラスト・ビジネスサービス	淡路市
ロック・フィールド	三井住友銀行	不動産業	徳島県
ロックベイント	三菱東京 UFJ 銀行	イオンモール	
六甲バター	ゆうちょ銀行	大東建託	
情報通信業	足利銀行		
愛媛朝日テレビ	関西アーバン銀行		
大塚商会	池田泉州銀行		
岡山エフエム放送	但馬銀行		
サイバーエージェント	みなと銀行		
スミセイ情報システム	南都銀行		
東京コンピュータサービス	紀陽銀行		
パナソニック	西京銀行		
メディコムネットワークス	山口フィナンシャルグループ		

備考

- ・前期未卒業を含まない
- ・就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
正規の職員ではない者（雇用期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者）
- ・進学者：大学院進学者のみ
- ・社名は、変更されている場合があります

神戸女学院大学

主な進学先 (2017年3月卒業生)

学校名
英文学科
大阪大学大学院 言語文化研究科
神戸大学大学院 国際文化科学研究科
神戸女学院大学大学院 文学研究科
総合文化学科
神戸大学大学院 国際文化科学研究科
奈良女子大学大学院 人間文化研究科
神戸女学院大学大学院 文学研究科
音楽学科
兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科
桐朋学園大学院大学 音楽研究科
神戸女学院大学大学院 音楽研究科
心理・行動科学科
関西大学大学院 心理学研究科
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科
環境・バイオサイエンス学科
京都大学大学院 生命科学研究科
大阪大学大学院 生命機能研究科
神戸大学大学院 医学研究科
奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科

神戸女学院中高部

進学状況は非公表

年度毎の就職決定状況

	卒業者数	希望者数	決定者数	決定者/ 希望者	進学者数	決定者/ (卒業者-進学者)
2012年度 (2013年3月卒業生)						
英文	183	149	144	96.6%	5	80.9%
総合文化	224	187	179	95.7%	8	82.9%
音楽	48	23	23	100%	5	53.5%
心理・行動	96	72	69	95.8%	4	75.0%
環境・バイオサイエンス	91	78	77	98.7%	5	89.5%
総計	642	509	492	96.7%	27	80.0%
2013年度 (2014年3月卒業生)						
英文	159	128	122	95.3%	10	81.9%
総合文化	223	188	181	96.3%	9	84.6%
音楽	52	17	15	88.2%	12	37.5%
心理・行動	95	71	67	94.4%	8	77.0%
環境・バイオサイエンス	83	71	67	94.4%	6	87.0%
総計	612	475	452	95.2%	45	79.7%
2014年度 (2015年3月卒業生)						
英文	145	130	129	99.2%	3	90.8%
総合文化	198	177	174	98.3%	5	90.2%
音楽	50	26	22	84.6%	6	50.0%
心理・行動	103	90	88	97.8%	9	93.6%
環境・バイオサイエンス	96	77	72	93.5%	12	85.7%
総計	592	500	485	97.0%	35	87.1%
2015年度 (2016年3月卒業生)						
英文	168	153	151	98.7%	2	91.0%
総合文化	222	204	202	99.0%	4	92.7%
音楽	40	18	15	83.3%	8	46.9%
心理・行動	104	85	82	96.5%	14	91.1%
環境・バイオサイエンス	91	79	78	98.7%	5	90.7%
総計	625	539	528	98.0%	33	89.2%
2016年度 (2017年3月卒業生)						
英文	152	137	135	98.5%	8	93.8%
総合文化	209	191	188	98.4%	3	91.3%
音楽	50	21	21	100%	7	48.8%
心理・行動	90	82	81	98.8%	6	96.4%
環境・バイオサイエンス	83	74	74	100%	4	93.7%
総計	584	505	499	98.8%	28	89.7%

役員・評議員 (2016年5月1日現在)

理事

第1号理事 院長(理事長) 定員1名、現員1名 森孝一	辻毅一郎
第2号理事 学長 定員1名、現員1名 斉藤言子	第6号理事 コーポレーション ^{※2} 推薦 理事会選任 定員3名、現員3名 原田恵子 伊藤栄子 溝口薫
第3号理事 中高部長 定員1名、現員1名 林真理子	第7号理事 理事会選任学識経験者 定員4名、現員3名 柴谷享一郎 菅根信彦 安場耕一郎
第4号理事 めぐみ会 ^{※1} 推薦会員で理事会選任 定員3名、現員3名 伊藤良子 皆本礼子 和氣節子	監事 定員2名、現員2名 野木芳子 下村俊子
第5号理事 評議員会選任 定員2名、現員2名 石割初子	

※1 めぐみ会…正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)
 ※2 コーポレーション…正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

評議員

第1号評議員 学識経験者(理事会選任) 定員11名、現員11名 橋本恵里子 北條敦子 石田忠範 伊藤良子 久保田哲夫 内藤能 佐藤容子 関本雅子 竹中禮子 辻毅一郎 吉富正夫	小澤妙子 杉本雅代 梅田玲子
第2号評議員 卒業生(めぐみ会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 石割初子 松本美耶子 中川玲子 大橋悦子 尾崎日佐子	第3号評議員 教職員(理事会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 飯謙 北田京子 中野敬一 荻欣也 大門光歩 高橋雅人 林典宏 住野秀樹
	第4号評議員 コーポレーション推薦 評議員会選任 定員4名、現員4名 馬場美奈子 Martha Mensendiek 水野多美 小澤純子

教職員 (2016年5月1日現在)

在籍教職員数

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	9	7	2	0	0	0	0	1	0	0	19
総合文化学科	12	9	3	0	0	0	0	0	1	0	25
音楽学科	6	3	0	0	4	0	0	2	0	0	15
心理・行動科学科	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	11
環境・バイオサイエンス学科	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	11
一般(体育)	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
共通英語教育研究センター	1	1	0	0	4	0	0	0	0	0	6
計	43	27	6	0	8	1	0	3	1	0	89

	教諭
高等学部	20
中学部	20
計	40

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員	計
法人	19	0	1	20
大学	49	0	3	52
中高部	5	0	0	5
計	73	0	4	77

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	6	9	15
週3日	1	5	6
週2日	0	4	4
週1日	0	0	0
計	7	18	25

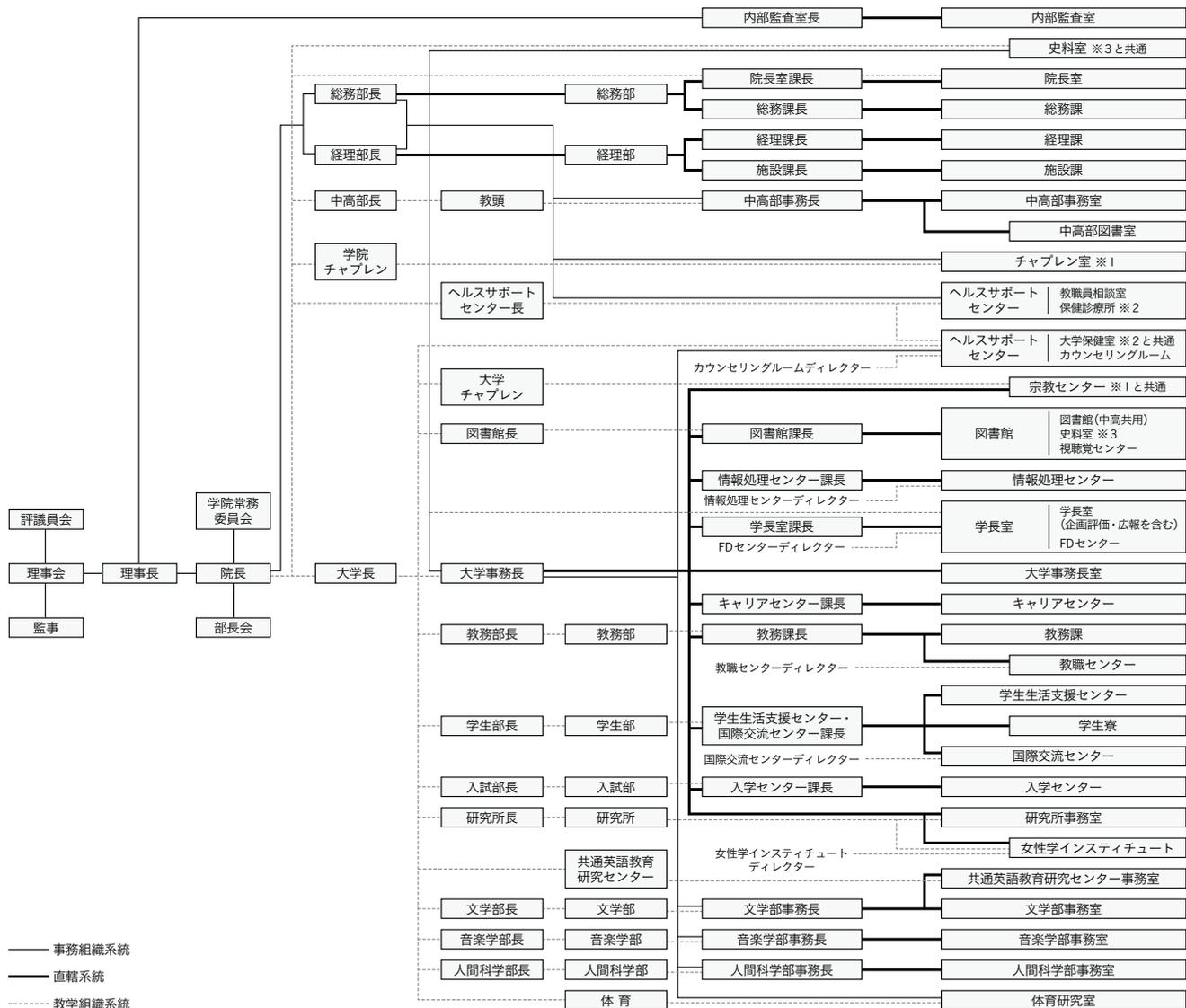
在籍教職員数推移

		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
大学	専任教員	83	84	88	88	89
	非常勤講師	338	338	327	321	317
	大学計	421	422	415	409	406
中高部	専任教員	41	41	42	42	40
	非常勤講師	23	22	20	16	16
	中高計	64	63	62	58	56
計		485	485	477	467	462

		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
学院	専任職員※	72	71	72	76	77
	嘱託職員	36	41	35	28	25
計		108	112	107	104	102

※契約職員含む

事務組織図 (2016年5月1日現在)



財務の概要

学校法人会計とは

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的として設立された法人です。企業は営利追求を目的としますが、学校法人は永続的な教育研究活動という極めて公共性の高い事業遂行を目的としており、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡状況や財政状態を正確に捉えることが重要となります。このように、学校法人と企業とは目的が異なるため、学校法人は企業会計基準とは別の会計基準が必要となります。

一方、国または地方公共団体より補助金の交付を受ける学校

法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、文部科学大臣の定める基準に従い計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

この従うべき基準が、「学校法人会計基準」であり、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守する統一的な会計処理基準として定められました。この基準に従い、本学院も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの財務書類を作成、開示する必要があります。

2016年度決算の概要

事業活動収支をみると、事業活動収入計は49億18百万円、事業活動支出計は50億39百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は△1億20百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額△1億42百万円、教育活動外収支差額49百万円、特別収支差額△28百万円によって構成されています。（金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳を加減算したものと合計額・差引額は一致しません。2014年度以前の数値は新会計基準ベースに組み替えて表示しています。以下同じ。）

まず、教育活動収入（48億44百万円、前年度比△18百万円）をみると、学生生徒等納付金（40億24百万円）は在籍者数に著変動なく前年度並み、寄付金（57百万円）は古本募金が増加傾向にあるものの金銭による寄付は減少しており、前年度比△8百万円となりました。経常費等補助金（4億70百万円、前年度比△11百万円）は、中高部に対する補助である兵庫県経常費補助金は増加（+2百万円）したものの、大学においては、私立大学等改革総合支援事業の不採択等により、私立大学等経常費補助金が減少（前年度比△11百万円）しました。付随事業収入（75百万円、前年度比+28百万円）については、学生寮のシャワーユニット取替工事や舎監室改修工事等を行いました。資本的支出の計上が多く、前年度より費用支出が少なかったため、収入増となっています。

一方、教育活動支出（49億87百万円、前年度比+2億58百万円）をみると、人件費は、退職関連費用が前年度より減少したものの、定期昇給等により全体的には微増となりました。教育研究経費は、大学ITリプレースをはじめとする環境整備に注力した結果、消耗品費増（+1億73百万円）や修繕費増（+61百万円）となり、前年度比では大幅な支出増（+2億68百万円）となりました。管理経費は、大学ブランディングへの取り組みを強化する一方、広報戦略の見直しによる広告宣伝費減の効果で前年度比△24百万円となりました。収入減の一方で支出が増加した結果、教育活動収支差額は△1億42百万円（前年度比△2億76百万円）となっています。

次に、教育活動外収支についてみると、前年度は金銭信託の

中で運用していた債券を売却したため、金銭信託運用益が例年より多く計上されていましたが、本年度は売却も行わず、利率の高い債券の減少に伴い利息収入も減少したため、受取利息・配当金は50百万円（前年度比△44百万円）となりました。一方、借入金の約定返済により借入金利息も減少（△0.9百万円）し、教育活動外収支差額は49百万円（前年度比△43百万円）となっています。

さらに、特別収支についてみると、前年度は主に債券売却益による資産売却差額35百万円を計上していましたが、本年度は資産売却を実施せず、施設設備補助金についても、私立大学等改革総合支援事業の不採択により減収となったため、特別収入は22百万円（前年度比△52百万円）に留まりました。一方、資産処分差額は大学ITリプレースやトイレ改修、空調機改修等に伴う除却損50百万円（前年度比+38百万円）を計上し、特別収支差額は△28百万円（前年度比△91百万円）となりました。

これらの3活動により、基本金組入前当年度収支差額は△1億20百万円となり、大学ITリプレースによる固定資産の取得（1億94百万円）や建物借入金の返済（42百万円）等による第1号基本金組入（2億11百万円）、第3号基本金組入（1億36百万円）、合計3億48百万円の基本金組入を行った結果、当年度収支差額は△4億69百万円（前年度比△3億89百万円）となりました。本年度は、学校法人会計基準の改正に伴い、第4号基本金取崩（19百万円）も必要となり、第1号基本金取崩とあわせると基本金取崩額は37百万円となりました。当年度収支差額に基本金取崩額及び前年度繰越収支差額（△10億95百万円）を加味した結果、翌年度繰越収支差額は△15億28百万円となりました。

資金収支をみると、事業活動収支と同様、収入減の一方、本年度の事業計画に則り、大学ITリプレースをはじめとする環境整備に注力した結果、大幅な支出増加となっています。ただ、年度末近くの工事も多く、期末未払金が増加したため、翌年度繰越支払資金は25億58百万円（前年度比△1億94百万円）となりました。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該会計年度の3つの活動（①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動）に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内訳を示し、経常収支（①教育活動収支と②教育活動外収支）と臨時的な収支（③特別収支）を明らかにするため、また、基本金組入後の収支均衡状態を明らかにするために作成します。2016年度の事業活動収支計算書の概要は次のとおりです。

教育活動収支	経常的な収支のうち、本業である教育研究活動の収支。	当年度収支差額	旧消費収支差額。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した額。長期的収支バランスの判断指標。
教育活動外収支	主に財務活動（資金調達と資産運用に係る活動）の収支。	前年度繰越収支差額	当年度収支差額の累積額。
経常収支差額	経常的な事業活動による収入（経常収入）とコスト（経常支出）の収支差額（バランス）。	翌年度繰越収支差額	当年度収支差額の累積額。
特別収支	特殊要因による臨時的な事業活動収入（施設設備取得に対する補助金等）や資産売却損益等。	事業活動収入	旧帰属収入。借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた正味の収入（現物寄付を含む）。
基本金組入前当年度収支差額	旧帰属収支差額。単年度における事業活動全体の収支差額。	事業活動支出	旧消費支出。資金支出のない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用。
基本金組入額合計	事業活動収入から基本金（諸活動の計画に基づき継続的に維持すべき資産）への当該会計年度の充当額。		

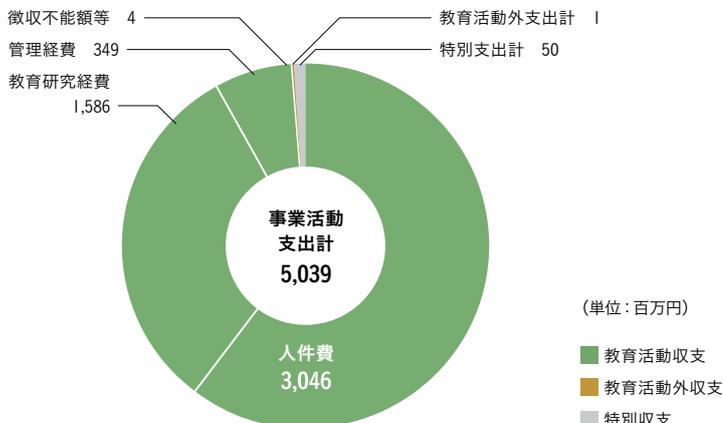
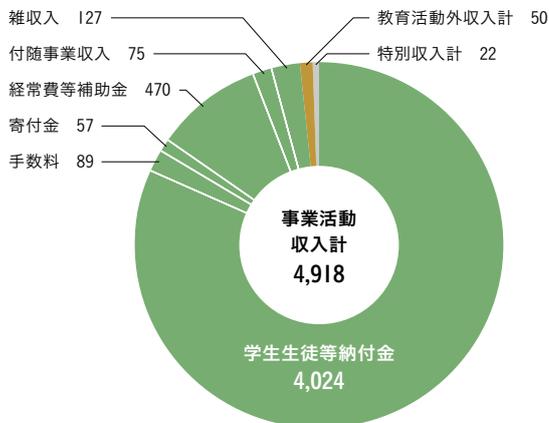
(単位：百万円)

科目		本年度 予算	本年度 決算 (A)	前年度 決算 (B)	増減 (A)-(B)	対前年度比増減要因	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	4,017	4,024	4,001	23	授業料や入学金で構成されています。前年度から在籍者数の大きな変動はなく、前年度並みとなっています。
		手数料	85	89	94	△ 5	大学の志願者数が前年度比94%となったことにより、前年度比減となっています。
		寄付金	52	57	66	△ 8	本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員等からの寄付金であり、教育振興会を通じての寄付が大半です。古本募金は増加傾向にありますが、金銭による寄付が前年度より微減したため減少しています。
		経常費等補助金	464	470	482	△ 11	国や地方公共団体からの補助金収入（施設設備の拡充等のための補助金を除く）です。大学において、改革総合支援事業の不採択により特別補助が減少したこと等により前年度比減となっています。
		付随事業収入	75	75	47	28	学生寮の運営費や受託事業収入等で構成されています。学生寮については、本年度はシャワーユニット取替工事や舎監室改修工事等を行いました。資本的支出の計上が多く、前年度より費用支出が少なかったため、収入増となっています。
		雑収入	117	127	171	△ 44	主に私学退職金財団からの交付金収入によるものであり、長期継続の退職者が減少したことにより交付金収入も減少しています。
	教育活動収入計	4,811	4,844	4,863	△ 18		
	支出の部	人件費	3,042	3,046	3,035	11	教職員の給与・賞与や退職給与引当金繰入額等で構成されています。本年度は、退職関連費用は前年度より減少しましたが、定期昇給等により、人件費全体としては微増しています。
		教育研究経費	1,608	1,586	1,318	268	本年度は環境整備に力を入れており、消耗品費（+1億733万円）や修繕費（+611万円）が増加しています。その主な内訳として、大学ITリプレース費用（2億280万円）、アンジー・クルー記念館外壁塗装他改修工事（200万円）、第一体育館体育室床改修工事（90万円）等があります。
		管理経費	361	349	374	△ 24	本年度は大学ブランディングへの取り組みを強化したこと等により、業務委託費は増加（+120万円）しましたが、それと相まって広報戦略の見直しにより広告宣伝費は減少（△420万円）し、管理経費が減少しています。
徴収不能額等		1	4	1	2	貸与奨学金の徴収不能見込額（本年度発生分）を計上しています。	
	教育活動支出計	5,012	4,987	4,729	258		
	教育活動収支差額	△ 201	△ 142	134	△ 276		
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	51	50	95	△ 44	前年度は金銭信託の中で運用していた債券を売却したため、金銭信託運用益が例年より多く計上されていましたが、本年度は当該売却により利息収入も減少したため、収入減となっています。
		教育活動外収入計	51	50	95	△ 44	
	支出の部	借入金等利息	1	1	2	△ 0	借入金の約定返済による減少です。
		教育活動外支出計	1	1	2	△ 0	
	教育活動外収支差額	49	49	93	△ 43		
	経常収支差額	△ 151	△ 92	227	△ 320		
特別収支	収入の部	資産売却差額	-	-	35	△ 35	前年度は特定資産で運用していた地方債等の売却益を計上しましたが、本年度は資産売却を実施していません。
		その他の特別収入	19	22	39	△ 17	設備の拡充等のための寄付金・補助金です。主な減少要因である施設設備補助金については、前年度は大学無線LAN化（800万円）、テレビ会議システム（400万円）の補助を受けましたが、本年度は補助金獲得が難しく、△130万円の減となりました。
		特別収入計	19	22	74	△ 52	
	支出の部	資産処分差額	27	50	11	38	施設・設備の処分差額を計上しています。本年度は、アンジー・クルー記念館、ジュリア・ダッドレー記念館、図書館新館のトイレ改修に伴う除却や、大学ITリプレースに伴う除却等により、資産処分差額が大幅に増加しました。
特別支出計		27	50	11	38		
	特別収支差額	△ 7	△ 28	63	△ 91		
	基本金組入前当年度収支差額	△ 158	△ 120	290	△ 411		
	基本金組入額合計	△ 412	△ 348	△ 370	21	本年度の組入内容は、大学ITリプレースによる固定資産の取得（1億940万円）や建設資金の借入金返済（420万円）等による第1号基本金組入（2億110万円）、第3号基本金組入（1億360万円）です。	
	当年度収支差額	△ 570	△ 469	△ 79	△ 389	本年度は教育活動収入は前年度並みでしたが、資産売却等を実施しなかったため、教育活動外収入、特別収入は前年度比減となっています。一方、本年度は政策的に環境整備に注力したことにより、事業活動支出は増加し、当年度収支差額はマイナス増となっています。	
	前年度繰越収支差額	△ 1,095	△ 1,095	△ 1,016	△ 79		
	基本金取崩額	-	37	-	37	本年度は、クルカット記念館空調機改修工事等による除却により高等学部、中学部、学校法人部門において、第1号基本金取崩（180万円）となりました。また、学校法人会計基準の改正に伴い、第4号基本金も取崩（190万円）を行っています。	
	翌年度繰越収支差額	△ 1,666	△ 1,528	△ 1,095	△ 432		

(参考)

事業活動収入計	4,881	4,918	5,033	△ 115	教育活動収入+教育活動外収入+特別収入を表します。
事業活動支出計	5,040	5,039	4,743	295	教育活動支出+教育活動外支出+特別支出を表します。

事業活動収支の内訳



(単位: 百万円)

■ 教育活動収支
■ 教育活動外収支
■ 特別収支

事業活動収支推移 (収入・支出)

(単位: 百万円)

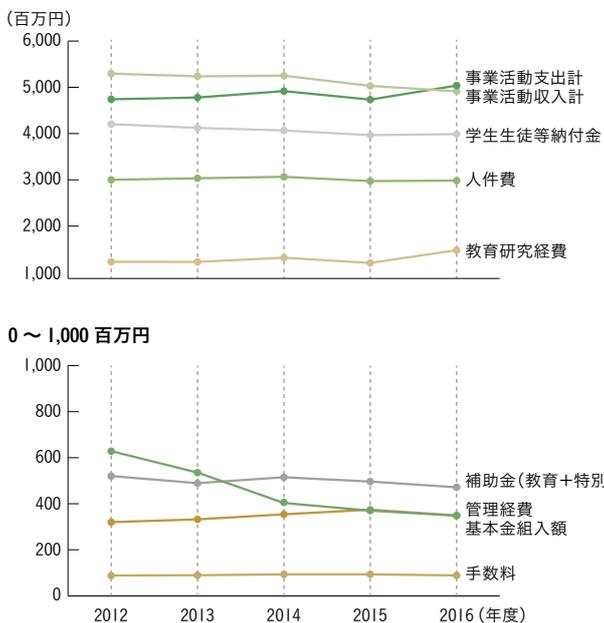
科目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
事業活動収入計	5,290	5,232	5,246	5,033	4,918
事業活動支出計	4,749	4,788	4,922	4,743	5,039
基本金組入額	628	535	403	370	348
学生生徒等納付金	4,231	4,151	4,093	4,001	4,024
手数料	89	90	94	94	89
補助金(教育+特別)	520	489	515	496	471
人件費	3,062	3,093	3,122	3,035	3,046
教育研究経費	1,342	1,341	1,428	1,318	1,586
管理経費	321	333	355	374	349

事業活動収支推移 (収支差額)

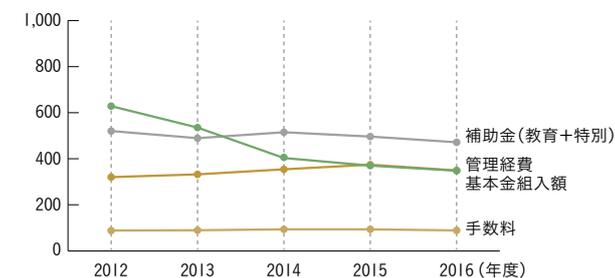
(単位: 百万円)

科目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
教育活動収支差額	465	303	212	134	△ 142
教育活動外収支差額	50	49	64	93	49
経常収支差額	516	352	276	227	△ 92
特別収支差額	24	91	47	63	△ 28
基本金組入前 当年度収支差額	541	444	323	290	△ 120
当年度収支差額	△ 87	△ 91	△ 80	△ 79	△ 469

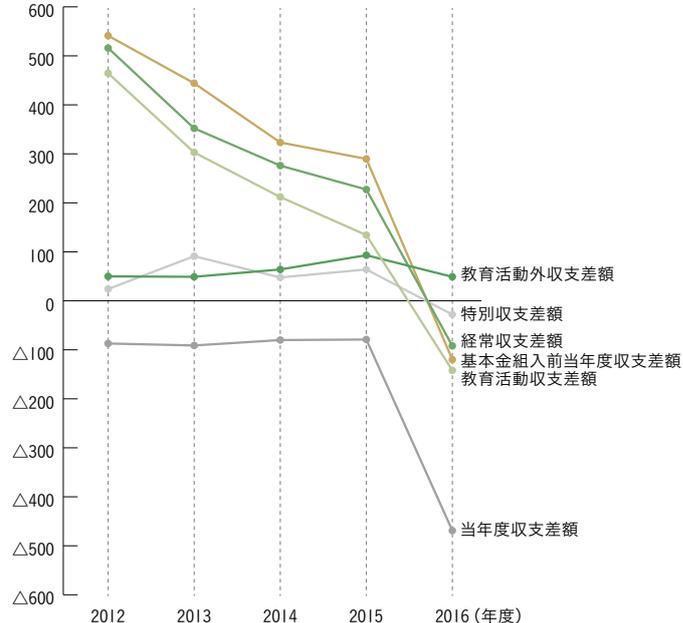
1,000～6,000 百万円



0～1,000 百万円



(百万円)



資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするために作成します。2016年度の資金収支計算書の概要は次のとおりです。

資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,017	4,024	4,001	23
手数料収入	85	89	94	△ 5
寄付金収入	70	77	90	△ 12
補助金収入	465	471	496	△ 25
資産売却収入	—	—	35	△ 35
付随事業・収益事業収入	75	75	47	28
受取利息・配当金収入	51	50	95	△ 44
雑収入	117	127	171	△ 44
借入金等収入	—	—	—	—
前受金収入	691	742	724	18
その他の収入	192	203	212	△ 8
資金収入調整勘定	△ 782	△ 787	△ 858	71
前年度繰越支払資金	2,753	2,753	2,659	93
収入の部合計	7,735	7,828	7,769	59

支出の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
人件費支出	3,045	3,043	3,054	△ 11
教育研究経費支出	1,312	1,290	1,011	279
管理経費支出	329	317	341	△ 23
借入金等利息支出	1	1	2	△ 0
借入金等返済支出	115	115	115	△ 0
施設関係支出	151	141	161	△ 19
設備関係支出	292	295	97	198
資産運用支出	148	159	164	△ 4
その他の支出	129	126	175	△ 48
資金支出調整勘定	△ 111	△ 220	△ 106	△ 113
翌年度繰越支払資金	2,323	2,558	2,753	△ 194
支出の部合計	7,735	7,828	7,769	59

収入の部

資金収入を伴わない収入（現物寄付等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、負債の増加を伴う収入（借入金、前受金等）や資産の現金化（貸与奨学金の返済等）に伴う入金取引は「資金収支計算書」に計上されていますが、収益取引ではないため、「事業活動収支計算書」には含まれません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

本年度も新規借入はなく、借入金等収入は計上していません。前受金については、公募制推薦入試及び一般入試の入学手続率が高く、2017年度の大学入学者数が増加したことにより、前年度比増（+18百万円）となっています。

その他の収入については著変動ありませんが、資金収入調整勘定についてみると、退職者減に伴う私学退職金財団交付金収入や補助金収入が減少した影響で期末未収入金が減少（84百万円の資金増）しており、前期末前受金の影響も加味すると、△7億87百万円（前年度比+71百万円）となっています。

上記の内容に、期首の支払資金残高増（前年度比+93百万円）も加算した結果、収入の部合計は、78億28百万円（前年度比+59百万円）となりました。

支出の部

資金支出を伴わない支出（減価償却費、資産処分差額等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、資産の入替（奨学金の貸与）、負債の減少（借入金の返済等）、資金支出時に費用にならない（将来費用化される）支出（施設関係支出、設備関係支出、前払金支払支出等）などは、「資金収支計算書」には計上されますが、「事業活動収支計算書」には含まれません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

借入金については、本年度も約定返済を実施しており、元本の減少に伴い利息支出も減少しています。

施設関係支出については、トイレ改修工事（アンジー・クルー記念館他）や空調機改修工事（タルカット記念館他）等の実施により、前年度並みの支出となっています。一方、設備関係支出については、大学ITリプレースによる資産の取得（教育研究用機器備品1億37百万円、ソフトウェア57百万円）や教室整備等の実施により、2億95百万円（前年度比+1億98百万円）となりました。

上記の結果、資金支出額は3億68百万円の増加となっています。しかし、期末未払金が増加（前年度比+1億9百万円）したことにより、資金支出調整勘定は△2億20百万円となり、その結果、翌年度繰越支払資金は25億58百万円（前年度比△1億94百万円）となりました。

活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書の決算額を3つの活動（①教育活動、②施設・設備の取得又は売却その他これに類する活動、③資金調達その他①②にかかる活動以外の活動）に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするために作成します。

2016年度の活動区分資金収支計算書は次のとおりです。

(単位：百万円)

		科目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,024	4,001	23
		手数料収入	89	94	△ 5
		特別寄付金収入	57	65	△ 7
		経常費等補助金収入	470	482	△ 11
		付随事業収入	75	47	28
		雑収入	127	171	△ 44
		教育活動資金収入計	4,844	4,862	△ 17
	支出	人件費支出	3,043	3,054	△ 11
		教育研究経費支出	1,290	1,011	279
		管理経費支出	317	341	△ 23
		教育活動資金支出計	4,651	4,407	244
		差引	193	455	△ 261
		調整勘定等	172	△ 26	198
		教育活動資金収支差額	365	428	△ 63
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	20	24	△ 4
		施設設備補助金収入	0	13	△ 13
		施設設備売却収入	—	0	△ 0
		施設整備等活動資金収入計	20	39	△ 18
	支出	施設関係支出	141	161	△ 19
		設備関係支出	295	97	198
		岡田山建築保存引当特定資産繰入支出	19	24	△ 4
		施設整備等活動資金支出計	456	282	174
		差引	△ 435	△ 243	△ 192
		調整勘定等	48	△ 5	53
	施設整備等活動資金収支差額	△ 387	△ 248	△ 138	
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 22	180	△ 202	
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	—	34	△ 34
		退職給与引当特定資産取崩収入	—	19	△ 19
		貸与奨学金回収収入	41	44	△ 2
		預り金収入	13	1	12
		小計	55	100	△ 44
		受取利息・配当金収入	50	95	△ 44
		その他の活動資金収入計	106	195	△ 89
	支出	借入金等返済支出	115	115	△ 0
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	136	140	△ 3
		退職給与引当特定資産繰入支出	3	—	3
		出資金支出	0	0	△ 0
		貸与奨学金支払支出	22	24	△ 2
		小計	277	280	△ 2
		借入金等利息支出	1	2	△ 0
		その他の活動資金支出計	279	282	△ 3
		差引	△ 172	△ 86	△ 86
		調整勘定等	—	—	—
		その他の活動資金収支差額	△ 172	△ 86	△ 86
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 194	93	△ 288	
	前年度繰越支払資金	2,753	2,659	93	
	翌年度繰越支払資金	2,558	2,753	△ 194	

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするために作成します。
2016年度の貸借対照表の概要は次のとおりです。

貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定資産	15,856	15,659	196
有形固定資産	8,843	8,828	15
土地	1,341	1,341	0
建物	4,376	4,474	△ 98
構築物	522	543	△ 21
教育研究用機器備品	558	443	114
管理用機器備品	20	18	2
図書	2,022	2,005	17
車両	0	0	△ 0
特定資産	6,281	6,121	159
第3号基本金 引当特定資産	1,528	1,392	136
退職給与引当特定資産	1,468	1,465	3
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存 引当特定資産	146	127	19
その他の固定資産	731	710	21
電話加入権	3	3	0
ソフトウェア	80	35	44
有価証券	406	406	0
差入保証金	3	3	0
出資金	20	20	0
貸与奨学金	215	239	△ 23
その他	0	0	0
流動資産	2,632	2,918	△ 285
現金預金	2,541	2,735	△ 194
修学旅行費預り資産	16	17	△ 0
未収入金	63	148	△ 84
前払金	10	16	△ 5
資産の部合計	18,488	18,577	△ 89

負債の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定負債	1,669	1,723	△ 54
長期借入金	196	251	△ 55
長期未払金	3	6	△ 2
退職給与引当金	1,468	1,465	3
流動負債	1,115	1,029	86
短期借入金	55	115	△ 60
未払金	212	98	113
前受金	742	724	18
預り金	88	74	14
修学旅行費預り金	16	17	△ 0
負債の部合計	2,784	2,752	31

純資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金	17,232	16,920	311
第1号基本金	15,349	15,155	193
第3号基本金	1,528	1,392	136
第4号基本金	354	373	△ 19
繰越収支差額	△ 1,528	△ 1,095	△ 432
翌年度繰越収支差額	△ 1,528	△ 1,095	△ 432
純資産の部合計	15,704	15,824	△ 120
負債及び純資産の部合計	18,488	18,577	△ 89

資産の部

【固定資産】158億56百万円（+1億96百万円）

有形固定資産については、大学ITリプレイスにより教育研究用機器備品が増加（+1億37百万円）しました。また、トイレ改修工事（アンジー・クルー記念館、ジュリア・ダッドレー記念館、図書館新館等）によりアメニティの向上を図るとともに、空調機改修工事（タルカット記念館、第三体育館他）や無線LAN環境の拡大（音楽学部1号館他）、文学部2号館32室33室34室の机・椅子の更新等、教育環境の充実にも力を入れました。その結果、有形固定資産は88億43百万円（前年度比+15百万円）となりました。

特定資産については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用しています。第3号基本金の計画的組入れ（2016年度まで毎年

1億円組入れ）、教育振興会等による寄付金収入の第3号基本金や岡田山建築保存引当特定資産への組入れにより、特定資産は62億81百万円（前年度比+1億59百万円）となりました。

その他の固定資産については、繰上返済等により貸与奨学金残高が減少（△23百万円）したものの、大学ITリプレイスに伴うソフトウェアの取得（57百万円）等により、7億31百万円（前年度比+21百万円）となりました。

【流動資産】26億32百万円（△2億85百万円）

未収入金は、主に退職金財団からの交付金で構成されており、長期勤務の退職者減や、補助金の期末未収入金が減少したことにより減少（△84百万円）しています。また、資金収支計算書の記述のとおり、現金預金が減少しています。

負債の部

【固定負債】16億69百万円(△54百万円)

借入先は私立学校振興・共済事業団のみであり、約定返済による短期借入金への振替により長期借入金が減少(△55百万円)しています。割賦購入による長期未払金や退職給与引当金に著変動はありません。

【流動負債】11億15百万円(+86百万円)

3億円の借入金を完済したことにより短期借入金が増加(△60百万円)しましたが、3月実施の工事(無線LAN工事、セキュリティ強化工事等)をはじめとする未払金が大幅に増加(+1億13百万円)したため、流動負債合計額も増加しました。

純資産の部

【基本金】172億32百万円(+3億11百万円)

第1号基本金は、保有する固定資産のうち教育の用に供されるものや、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額を組み入れたものであり、本年度は、大学ITリプレイス等による固定資産の取得に伴い1億93百万円増加しました。第3号基本金は、奨学金などの教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するために組み入れるもので、奨学基金への計画的組入れ1億円及び教育振興会等の寄付金の組入れにより1億36百万円増加しました。第4号基本金は、運転資金の財源として組み入れたものであり、本年度は19百万円の取崩を実施しました。

【繰越収支差額】△15億28百万円(△4億32百万円)

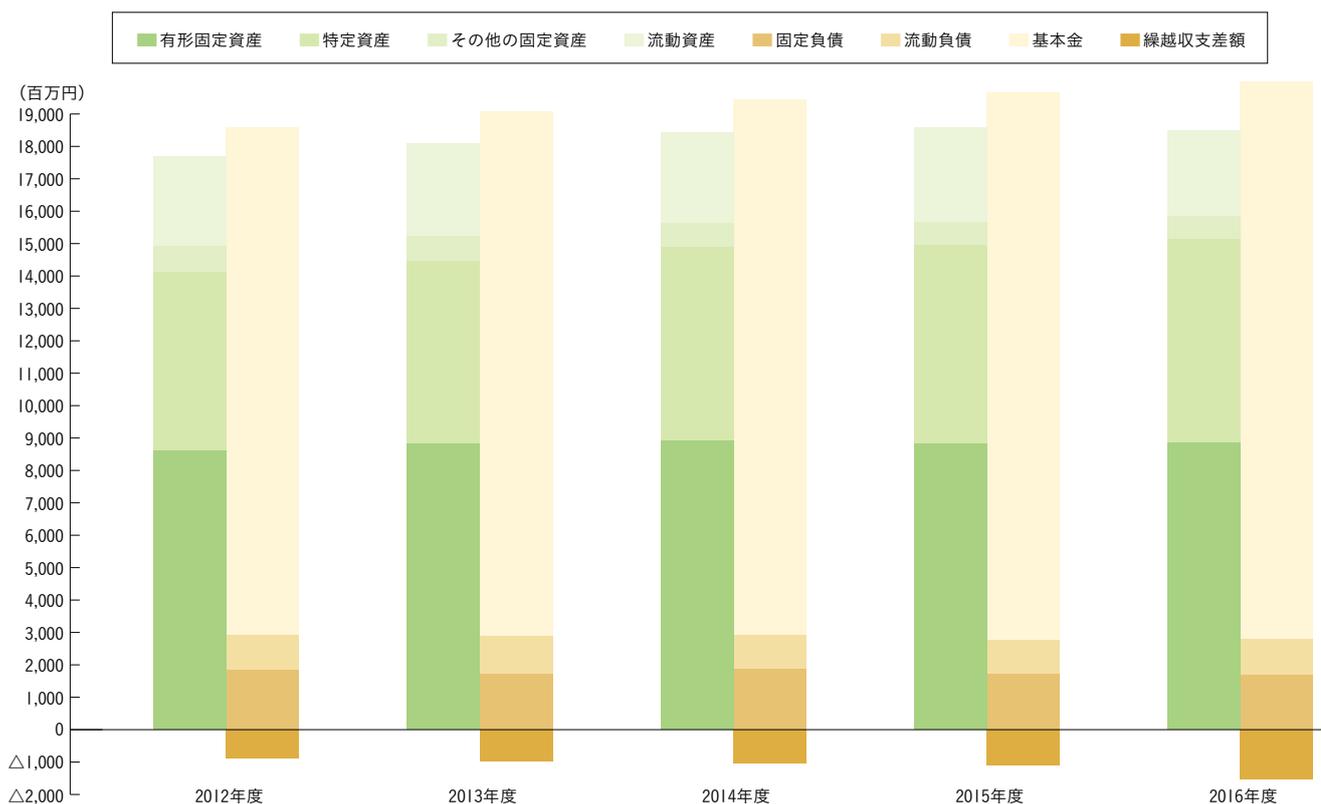
事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が計上されており、長期的な収支バランスを表しています。

貸借対照表の推移

資産の部					
科目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
有形固定資産	8,611	8,822	8,905	8,828	8,843
特定資産	5,521	5,645	5,976	6,121	6,281
その他の固定資産	794	767	744	710	731
流動資産	2,768	2,857	2,816	2,918	2,632
合計	17,696	18,092	18,443	18,577	18,488

(単位:百万円)

負債及び純資産の部					
科目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
固定負債	1,829	1,706	1,856	1,723	1,669
流動負債	1,100	1,175	1,052	1,029	1,115
基本金	15,652	16,188	16,550	16,920	17,232
繰越収支差額	△886	△977	△1,016	△1,095	△1,528
合計	17,696	18,092	18,443	18,577	18,488
【参考】純資産	14,766	15,210	15,534	15,824	15,704



財務比率の推移

過去5年間の事業活動収支計算書、貸借対照表の財務諸比率の推移は次のとおりです。

(財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています。)

なお、2014年度以前の財務比率については、計算書類を新会計基準ベースに組み替えて算定しています。

事業活動収支計算書関係比率

(単位：%)

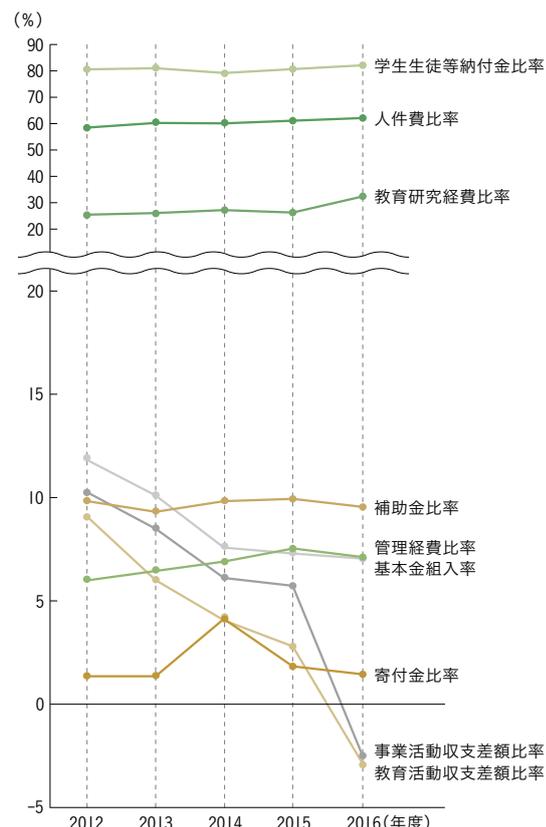
比率名	計算式	評価	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	全国平均	同規模平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	58.3	60.4	60.2	61.2	62.2	53.7	51.3
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	25.5	26.2	27.5	26.6	32.4	33.2	37.7
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	6.1	6.5	6.9	7.5	7.1	9.3	7.8
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	—	80.5	81.0	78.9	80.7	82.2	73.7	51.0
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	1.4	1.4	4.0	1.8	1.6	2.3	1.5
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	9.8	9.4	9.8	9.9	9.6	12.5	12.5
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	9.0	6.0	4.1	2.8	△2.9	1.8	1.4
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	10.2	8.5	6.2	5.8	△2.5	4.7	3.2
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	11.9	10.2	7.7	7.4	7.1	12.2	12.6

*評価欄は「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」「—：どちらともいえない」を示しています。

(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」、日本私立大学連盟「新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン」を参考に記載。以下同じ。)

経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

平均値は2015年度決算の平均値であり、全国平均は医歯系法人を除く全国508大学法人の平均値、同規模平均は学生生徒数3～5千人規模の全国118大学法人の平均値を示しています。



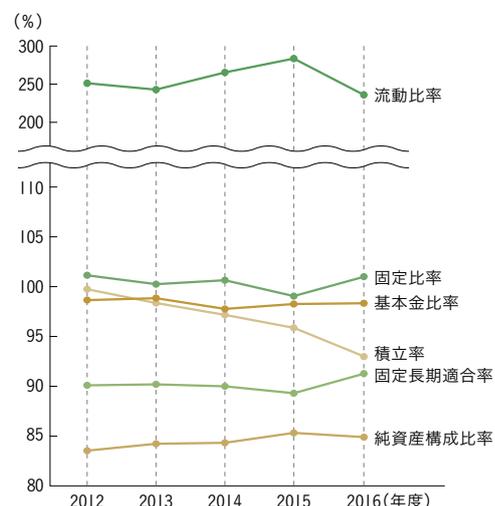
貸借対照表関係比率

(単位：%)

比率名	計算式	評価	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	全国平均	同規模平均
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	251.5	243.1	267.6	283.5	236.0	254.1	294.3
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	101.1	100.2	100.6	99.0	101.0	98.9	96.0
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	▼	90.0	90.1	89.9	89.2	91.3	91.4	88.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	98.6	98.8	97.7	98.2	98.3	97.2	97.2
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	83.4	84.1	84.2	85.2	84.9	87.5	87.3
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	99.7	98.3	97.1	95.8	93.0	80.2	74.0

* 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却累計額＋退職給付引当金＋第2号基本金＋第3号基本金



2017年度事業計画

今後の運営方針及び2017年度事業計画

中高部や法人も含めた本学の主な取り組みのうち、特別予算を中心とした2017年度の主な事業計画の内容は以下のとおりです。

2017年度に実施される事業計画の策定にあたり、大学では以下の重点項目を定め、これらを踏まえた施策・全学的取り組みを優先し採択しました。

2017年度重点項目(番号：優先順位)	継続的な注力項目
1. 広報	▽ 英語教育の強化
2. 国際化の推進	▽ リベラルアーツ教育の整備
3. 社会連携の強化	▽ 学習支援環境の充実

広報

- ・本学学生や受験生等に対するアンケート調査を実施し、本学の強みや改善点を把握することで、今後の広報活動や学制的な制度の見直しに役立てていきます。
- ・2016年度に実施した調査、アンケート等の実施を踏まえ、大学ブランディング戦略を立案します。ロールモデルとなる女性像やリベラルアーツを訴求するタグライン(キャッチコピー)を含むコンテンツ等の制作、キャンパスの魅力を感じられるイベントを実施し、調査による効果検証まで行います。
- ・研究開発の成果として、『美容式』®アミノ酸ゼリーに続く神戸女学院大学ブランド商品を企画、販売し、広報活動に繋げていきます。
- ・大学公式サイト、入試サイト、研究所・女性学インスティテュート、総合文化学科、音楽学部、人間科学部の各ホームページをリニューアルし、セキュリティ対策および、スマートフォン等に対応した機能向上を目指します。
- ・神戸女学院クリスマス礼拝において使用された代表18曲の楽譜「クリスマス曲集」を出版します。

国際化の推進

- ・2015年度より開始したIELTS(アイエルツ)の学内受験について、2017年度も受験料を一部補助(1万円/人)し、派遣留学を含めた留学生の増加を図ります。
- ・「遠隔同時会議・通訳システム」を継続活用することにより、海外とライブで双方向的な授業や会議を展開します。学生の国際感覚や語学力の向上、遠隔地との会議の簡易化を図ります。
- ・学長裁量経費によるCLIL教員研修実施により、本学大学教育の国際化の準備を開始します。
- ・教育の国際化の充実発展のため、各学科が実施する海外フィールドワークへの学長裁量経費による支援体制を作ります。

社会連携の強化

- ・2017年度も引き続き、「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」を開催します。
- ・教育における社会連携推進のため、地域でのサービラーニング等の活動に対し、学長裁量経費から経費支援できる枠組みを作ります。

英語教育の強化

- ・1年生の前期、GEI51(1)履修者全員にOsaka English Village(体験型英語教育施設)への参加を義務づけます。英語アレルギーを取り払い、英語学習のモチベーションを高めることを目指します。
- ・2014年度から継続して「英語手帳」を発行、オリジナルテキストも改訂版を出版します。
- ・新しい英語オンライン学習システム、ATR CALL-BRIXの導入により英文学科を含む全学生が自分の英語のレベルに合わせて自主的に4技能を伸ばしつつTOEICやTOEFL学習に取り組めるように環境を構築します。

に4技能を伸ばしつつTOEICやTOEFL学習に取り組めるように環境を構築します。

リベラルアーツ教育の整備

- ・大学の教務システム(Universal Passport)のシステム改修により、シラバスに「本学で学ぶ7つの力」を新たな項目として盛り込むことで、学生が履修選択する際の指標を示し、学生が受講科目に取り組む際に、より意欲的かつ主体的に取り組めるようにします。
- ・学習手段の充実を図るべく、2017年度から始まるアクティブラーニング系の授業での利用増が見込まれるタブレット型PCを増設します。
- ・全1年生に、大学での学び方に関する基本的な図書を配布、自主的に意欲的な学びを奨励します。
- ・新科目クローバーゼミによって新しいリベラルアーツ教育を推進するため、非常勤を含む全担当者会議を開催し、大学としてアクティブラーニングを進めます。
- ・第3期認証評価を見据えて、自己点検・評価データマネジメントシステムを改修します。

学習支援環境の充実

- ・前回更新から5年経過した大学の教務システム(GAKUEN/Universal Passport)のサーバー更新を行い、安定的かつ持続的な運転・運用を図ります。
- ・大学内ネットワークシステム、無線アクセスポイント、パソコン教室(CS/MM/CALL教室)の情報関連システムおよび機器、教職員および学生用のメールシステム等のサーバシステムなどの整備・維持管理を行い、安定運用可能な体制を維持します。
- ・英文学科の新カリキュラムで新たに開講される体験型科目で使用するビデオ制作のための一連の機器やビデオ編集ソフト、最新ソフトに対応した編集用ノートPCを購入します。優秀なビデオ作品は英文学科HPにアップする予定であり、広報面での効果も期待されます。
- ・音楽学部において修理が必要なハーブ1台を買い替え、安定的な授業運営を図ります。
- ・臨床心理学実習室(S-8)、行動科学基礎実習室(S-10)、行動科学応用実習室(S-13)のデスク等の入れ替えを実施し、快適な授業・自習環境を提供します。
- ・メアリー・アンナ・ホルブルック記念館にマイクロ波プラズマ原子発光分光分析装置を設置します。購入後25年以上にわたり教育・研究の両面で使用されてきた環境科学分野の主要分析装置である当装置を更新することで、実験時の安全性、正確性、作業効率の向上が図れます。また、環境科学分野だけでなくバイオサイエンス領域の研究へと教育研究における適用範囲の拡大が見込まれます。
- ・(中高部)文科省推奨のアクティブラーニングのための各HR教室のICT化(視覚化:スクリーンやプロジェクターの設置、無線LANポイントの設定等)により、授業でのPC等の活用が容易になります。また、電子黒板プロジェクターを使用することで、双方向での授業展開も可能となり、理想的な授業スタイルに向けての基盤整備が整います。
- ・(中高部)大学と共有のテニスコートのうち、1面をオムニコート化します。ローラー整備が不要となるだけでなく、大会等でのコンディションに左右される度合いも減るため、利用頻度の増大に繋がることが期待されます。
- ・(中高部)老朽化している中高部1号館の照明器具をLEDに全面更新します。また、黒板灯やサーキュレーション(33室・40室)も併

せて設置し、良好な室内環境の維持とランニングコストの削減に努めます。

- ・学校行事、礼拝の円滑な実施を担保するため、講堂AV機器を更新するとともに、スポットライトを設置し、高所作業リスクの回避および各種行事での演出の多様化を図ります。

その他

【学生生徒支援】

- ・給与奨学金制度を新設し、家計基準・成績基準を満たす者（2～4年生：各学年10名ずつ）に対して年額360千円を給付します。経済的理由による退学者を減らし、卒業後の奨学金返還の負担を軽減させ、在学中は学業に専念し充実した学生生活を送れるよう支援していきます。
- ・（中高部）給与奨学金制度「中高部クローバー給与奨学金」を新設し、高等学部在籍する経済的困窮下にある生徒を支援します。
- ・学生寮において、希望する寮生に対して夕食提供サービス（授業開講期間中の平日）を開始し、栄養状態の改善を図ります。その他、給湯器取り替え、乾燥機の増設、食堂椅子の座面クリーニング、防犯カメラの設置（2台）等により、寮生が快適かつ安全に生活できる環境を整えます。
- ・「就職率向上のための支援講座」「フロントランナー育成のための特別講座」「早期離職抑制のためのキャリア支援」を実施し、引き続きキャリア教育およびキャリア支援活動の充実を図ります。

2017年度予算書

2017年度の事業活動収支予算書の概要は次のとおりです。

教育活動収支

収入面においては、学生生徒納付金は2015年度大学入学者より、授業料を年額5.5万円増額したため、2016年度に引き続き収入増加が見込まれ、前年度当初予算比63百万円の増収となります。補助金は「私立大学等改革総合支援事業」「私立大学研究ブランディング事業」での採択を目指し、71百万円の増収を見込んでいます。付随事業収入は、学生寮における夕食提供サービスの開始や各種設備更新等を予定していますが、前年度に実施したシャワーユニット取替工事（11百万円）の支出要因が剥落し、前年度並みとなります。雑収入は前年度2名の定年退職者に対する私学退職金財団からの交付金28百万円を見込んでいましたが、2017年度は定年退職者ゼロであること等から25百万円の減収となり、教育活動収入は前年度当初予算比1億8百万円増の48億11百万円となります。

支出面においては、人件費は定年退職者の退職金の支出要因が剥落しますが（退職関連費用△33百万円）、定期昇給等の影響により人件費は前年度並みとなり、教育活動支出は前年度当初予算比4億62百万円減の48億6百万円となります。2017年度において実施される事業計画にもとづく特別予算総額は3億84百万円となり、2016年度当初予算と比較して5億82百万円の大幅減となりました。その主な要因は、2016年度予算には大学内ネットワークシステム等のITリプレース費用4億36百万円が含まれていたことによります。その結果、人件費を除く教育活動支出は4億67百万円減少します。

従って、教育活動収支差額は前年度当初予算比5億70百万円増加し、4百万円の収入超過と黒字転換となる見込みです。

教育活動外収支

2014年秋に急落した原油はじめ資源価格の低迷は2016年に底入れした可能性が高く、今後は、米国および新興国が牽引する形で世界経済の改善および物価上昇が展望される一方、金融市場は米国トランプ政権が打ち出す規制緩和、減税策、財政政策、保護主義政策の影響、フランス、ドイツの選挙など政治イベント、FRBや日銀など中央銀行の金融政策の動向によって波乱含みの展開が予想されます。このような

- ・学内コンビニエンスストア（セブン-イレブン）で使用できるKCオリジナルnanacoカード（プリペイドカード）を制作し、学生生徒のカード購入を促進することでレジの混雑緩和を図ります。また、卒業生やお客様のノベルティ需要を満たすことが期待されます。

【学生生徒募集】

- ・一般入試（前期・後期）およびセンター利用入試（前期・後期）について、インターネット出願を導入し、受験生の利便性を高めます。一方、出願書類の記入ミス等をチェックする手間や人員を削減し、出願状況をタイムリーに把握できるようになるため、業務効率も高まります。

【管理】

- ・2016年度に実施した人間科学部建物4棟への鍵の管理強化（ディンプルキーへの交換、鍵管理装置や入退館管理装置の設置等）を総務館およびデフォレスト館にも展開するとともに、監視カメラも増設し、セキュリティ強化を図っていきます。
- ・重要文化財保護の観点から、法の基準にもとづき、エッジウッド館と正門（守衛室・正門住宅）に自動火災報知機を設置します。
- ・ジョージ・オルチン記念館空調設備改修、タルカット記念館サッシ改修・外壁塗装（西面）、大学クローバー館外壁改修、総務館・中高部1号館床下蒸気配管保温材の除去、汽罐室からめぐみ会館までの道路の排水管・ガス管改修、ケンウッド館他エアコン更新等を実施します。

中、資産運用については、金利上昇リスクに最大限の注意を払い、引き続き、安全性と流動性を重視します。市場環境の変化に応じ、資産の入れ替えを検討しますが、計画上は現状の資産構成にもとづき、保守的に収入を見積もるため、受取利息・配当金収入は20百万円の減収、一方、借入金の約定返済が進むことから、借入金利息等も0.4百万円減少し、教育活動外収支差額は前年度当初予算比19百万円減少の41百万円を見込んでいます。

経常収支差額

以上から経常収支差額は5億51百万円増の45百万円の収入超過となります。

特別収支差額

特別収入は施設設備寄付金が微減する一方、中高部のICT化にかかる補助金採択を見込み、4百万円増の28百万円、特別支出はITリプレースによる除却という特殊要因の剥落により資産処分差額は12百万円減の12百万円と見込み、特別収支差額は16百万円の収入超過となります。

基本金組入前当年度収支差額（旧帰属収支差額）

以上から、基本金組入前当年度収支差額は62百万円の収入超過となります。

基本金組入額合計

ジョージ・オルチン記念館の空調設備改修工事、セキュリティ強化プロジェクトに基づく総務館等の鍵管理装置や入退館管理装置の設置、大学の教務システムサーバーの更新や中高部での各教室ICT化整備費用など施設・設備関連で1億58百万円、借入金（設備投資資金）の約定返済により55百万円等を組み入れたものの、奨学金基金充実のための第3号基本金への計画的組入（2011年度～2016年度まで毎期1億円組入）の完了等により、基本金組入は前年度当初予算比3億73百万円減の1億29百万円を計上します。

当年度収支差額、翌年度繰越収支差額

以上から、（2017年度）当年度収支差額は66百万円の支出超過となります。

2017年度事業活動収支予算書

(単位：百万円)

		科 目	金 額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,047	
		手数料	85	
		寄付金	50	
		経常費等補助金	510	
		付随事業収入	81	
		雑収入	37	
		教育活動収入計	4,811	
	事業活動支出の部	人件費	2,994	
		教育研究経費	1,429	
		管理経費	383	
		徴収不能額等	—	
		教育活動支出計	4,806	
	教育活動収支差額			4
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	42
その他の教育活動外収入			—	
教育活動外収入計			42	
事業活動支出の部		借入金等利息	0	
		その他の教育活動外支出	—	
		教育活動外支出計	0	
教育活動外収支差額			41	
経常収支差額			45	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	
		その他の特別収入	28	
		特別収入計	28	
	事業活動支出の部	資産処分差額	12	
		その他の特別支出	—	
		特別支出計	12	
特別収支差額			16	
基本金組入前当年度収支差額			62	
基本金組入額合計			△ 129	
当年度収支差額			△ 66	

(参考)

事業活動収入計	4,881
事業活動支出計	4,819

校地・校舎

・岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,964.01 m²



- 1 正門
- 2 音楽学部1号館
- 3 音楽学部2号館
- 4 ジョージ・オルチン記念音楽館
- 5 エミリー・ブラウン記念館
- 6 文学部1号館
- 7 文学部2号館
- 8 デフォレスト記念館
- 9 図書館本館
- 10 理学館
- 11 総務館・講堂・ソールチャペル
- 12 文学館
- 13 理学館別館・心理相談室
- 14 社交館
- 15 新社交館
- 16 メアリー・アンナ・ホルブルック記念館
- 17 第一体育館
- 18 第二体育館
- 19 第三体育館
- 20 テニスコート
- 21 購買部
- 22 シェイクスピア・ガーデン
- 23 図書館新館
- 24 ジュリア・グッドレー記念館
- 25 エッジウッド館
- 26 ケンウッド館
- 27 メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮
- 28 岡田山ロッジ
- 29 大学クローバー館(クラブハウス)
- 30 茶室(松風庵)
- 31 ミリアム館
- 32 汽罐室と煙突
- 33 アンジー・クルー記念館
- 34 コミュニケーションセンター
- 35 葆光館(中高部)
- 36 ヴァージニア・クラークソン記念館
- 37 タルカット記念館
- 38 めぐみ会館(同窓会館)
- 39 Kobe College International Students House

●は重要文化財

・東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8番7号

敷地面積 367.46 m²

総務館

岡田山キャンパス造営時にコ
ウベ・カレッジ・コーポレー
ション募金委員長をつとめた
ヘイゼル・ソーン・ウィルソ
ン（ジョージ・アール・ウィ
ルソン夫人）を記念するステ
ンドグラスの大きな窓



 学校法人 神戸女学院

〒662-8505 西宮市岡田山4番1号

電話 0798-51-8508（経理課）

<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>